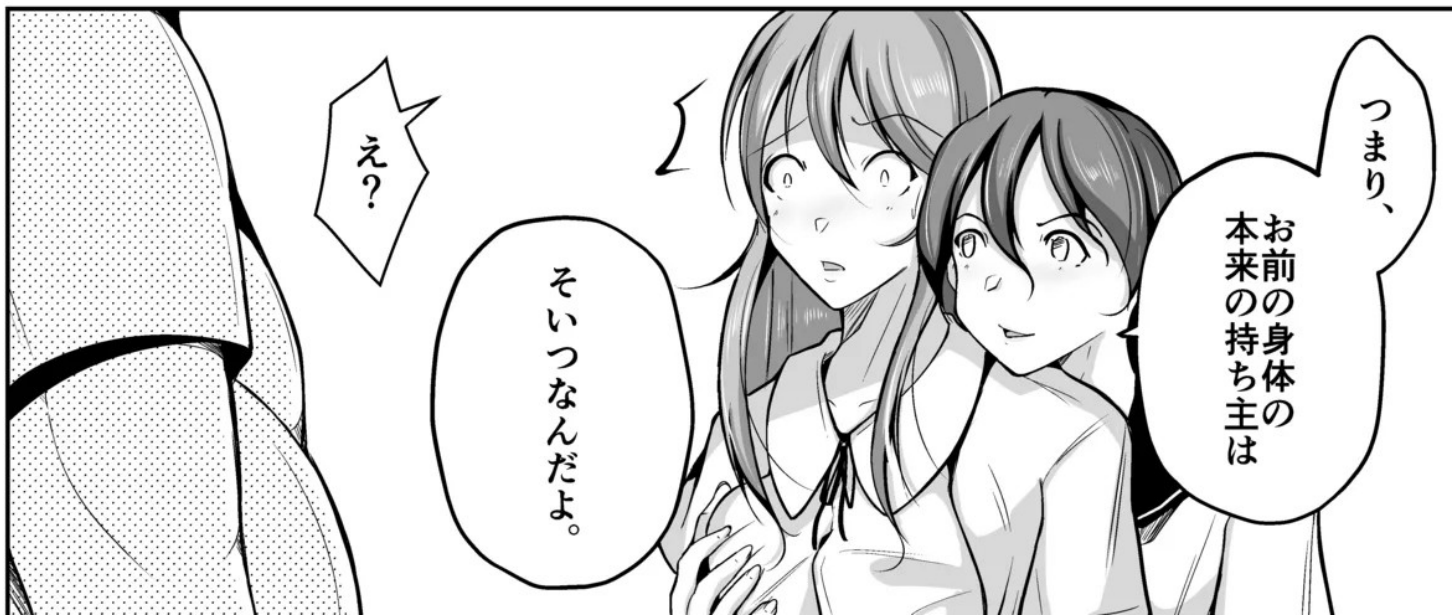
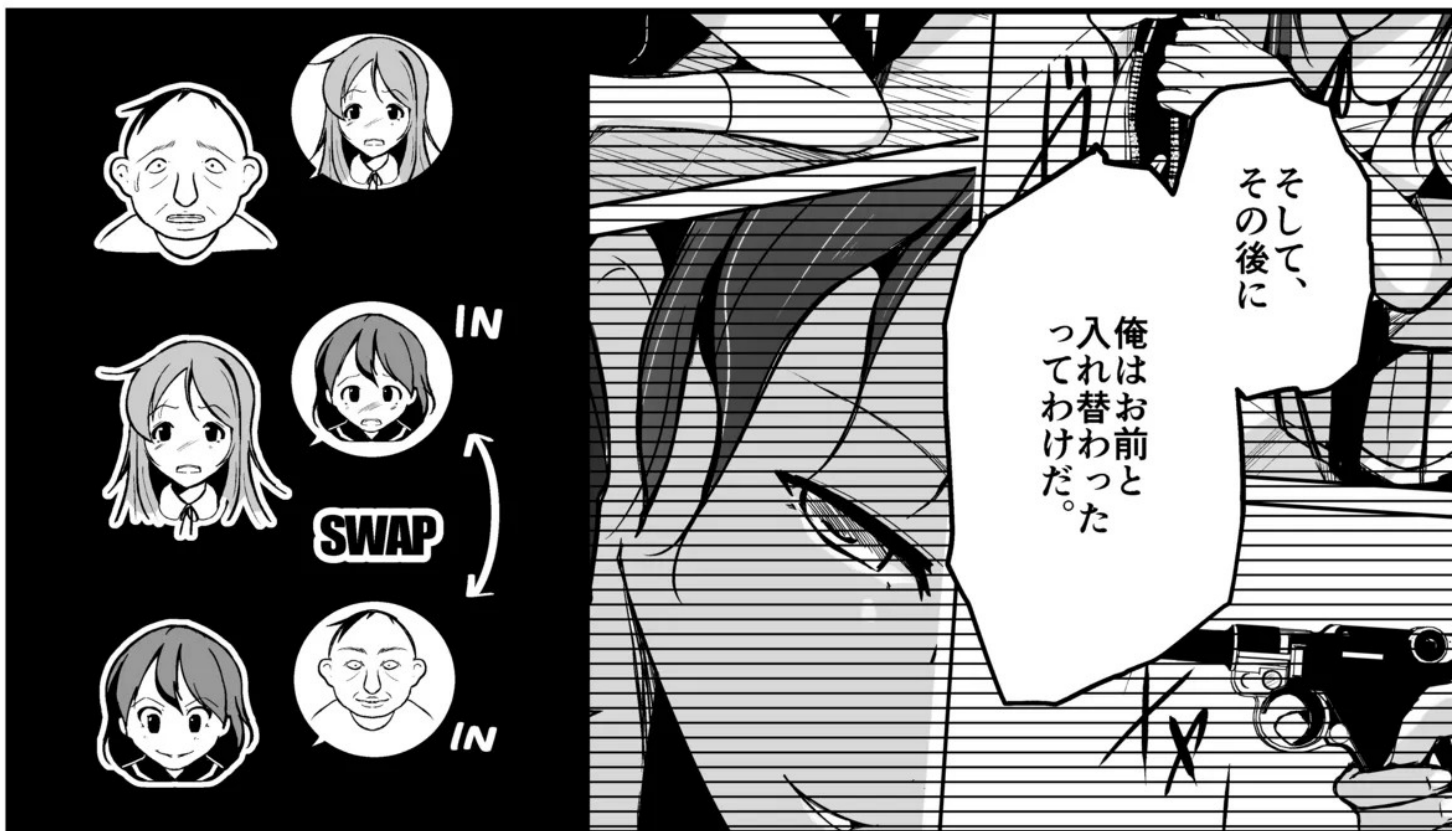








俺は自分の
見た目が
嫌いだっ
た。

綺麗な
カワイイ女に
なれたら

どれほど
楽しいん
だろうな？

醜い気持ち悪い。

だからずっと
思ってたのさ。

それと同時に

そんな奴らを

俺と同じ目
にあわせて
やりたく
思っていた。



いい気分だ。

お前たちは
こんな気分
で俺たちを
見下してたん
だな。



……狂ってる！

そんな事許されると
思ってるの？

早くその銃で
元に戻さないさいよ！

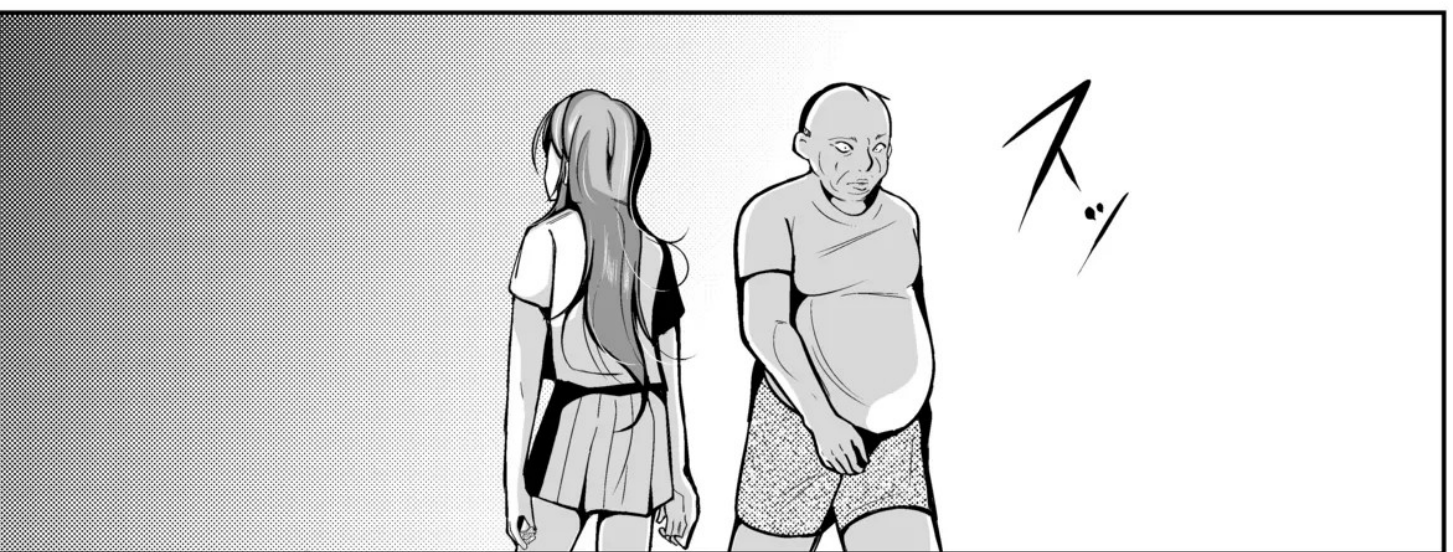


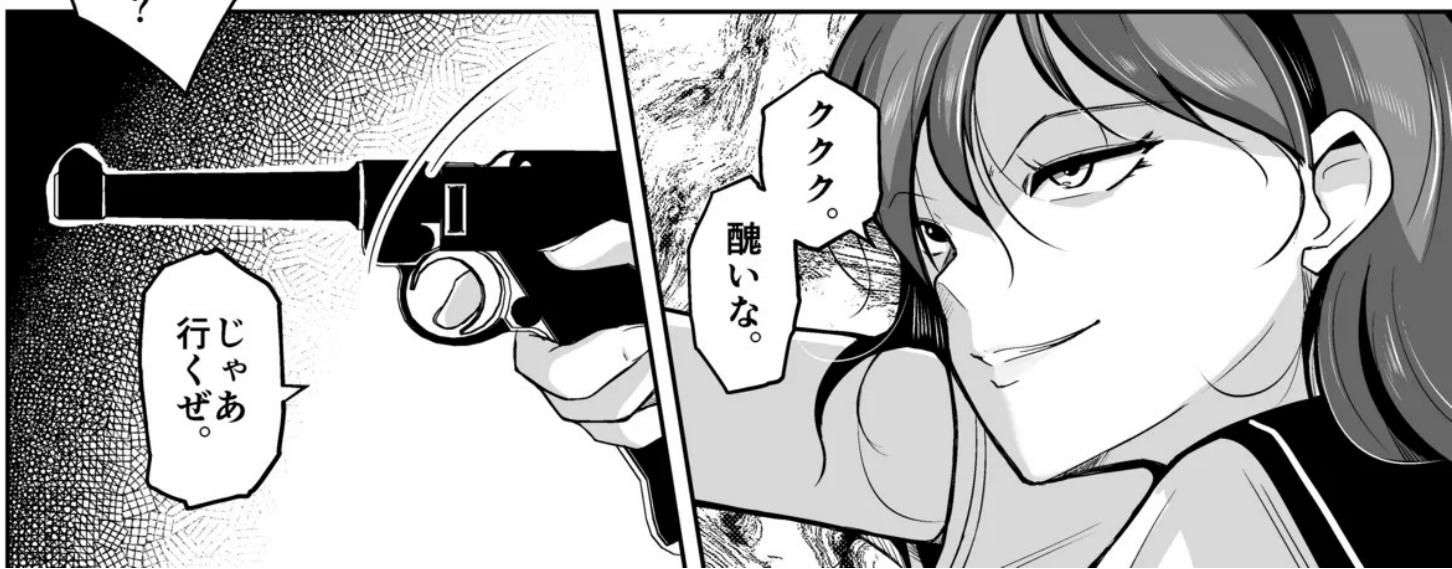
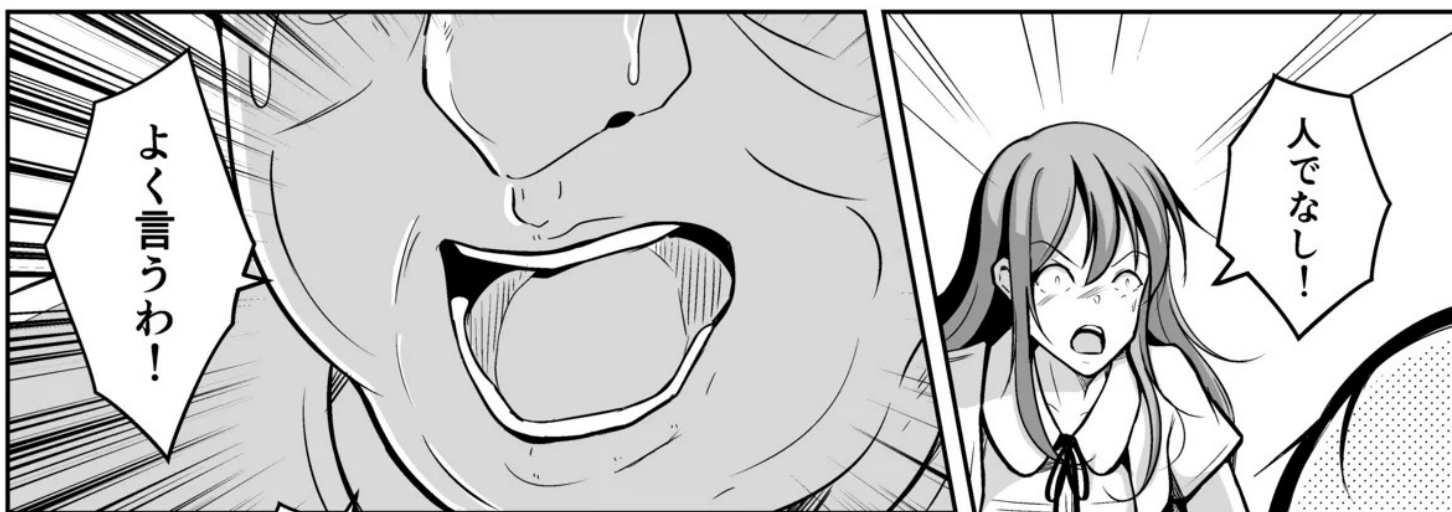
そうだなあ。

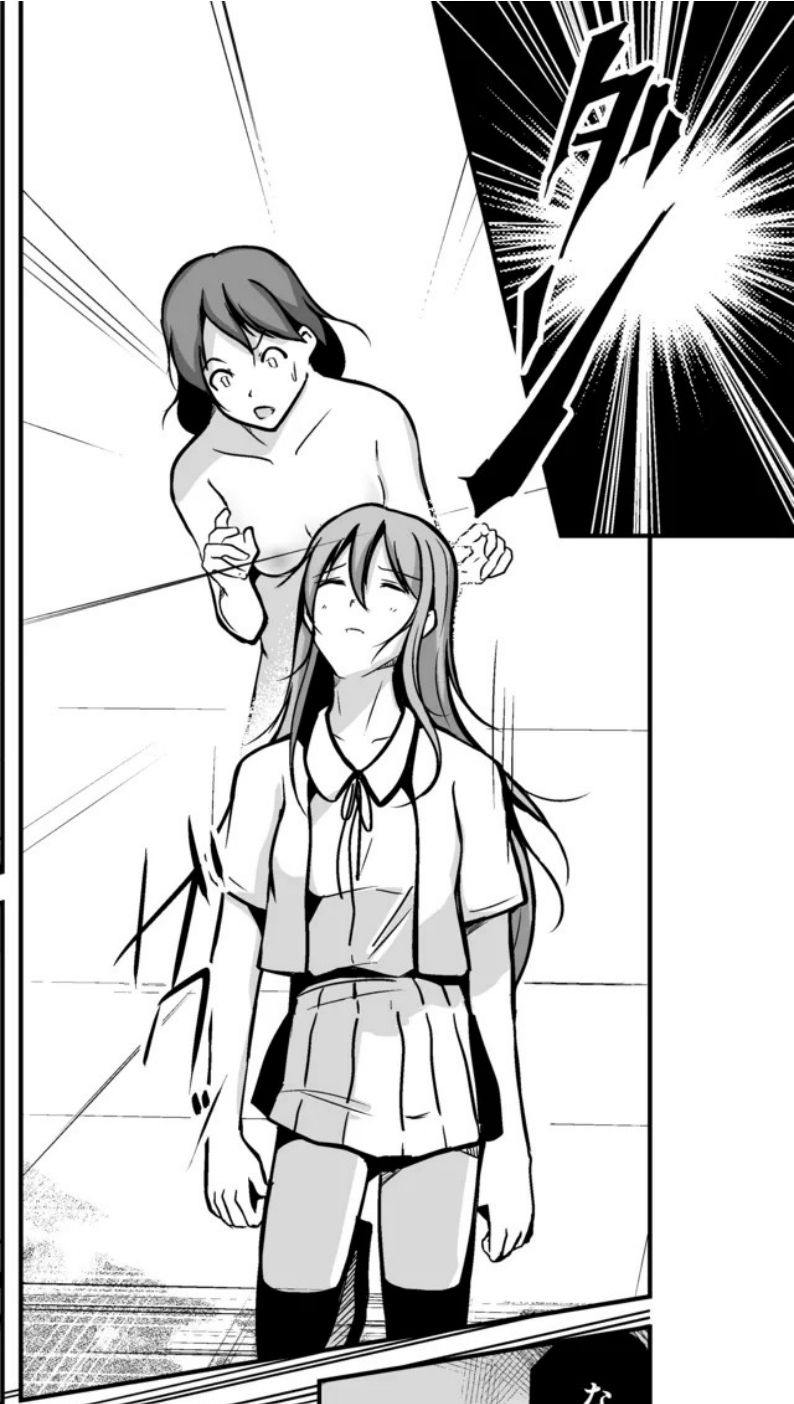
戻してやっても
良いぜ？

ただし









これで私は
元に戻る……

ああ。
良かった。



なんてな！

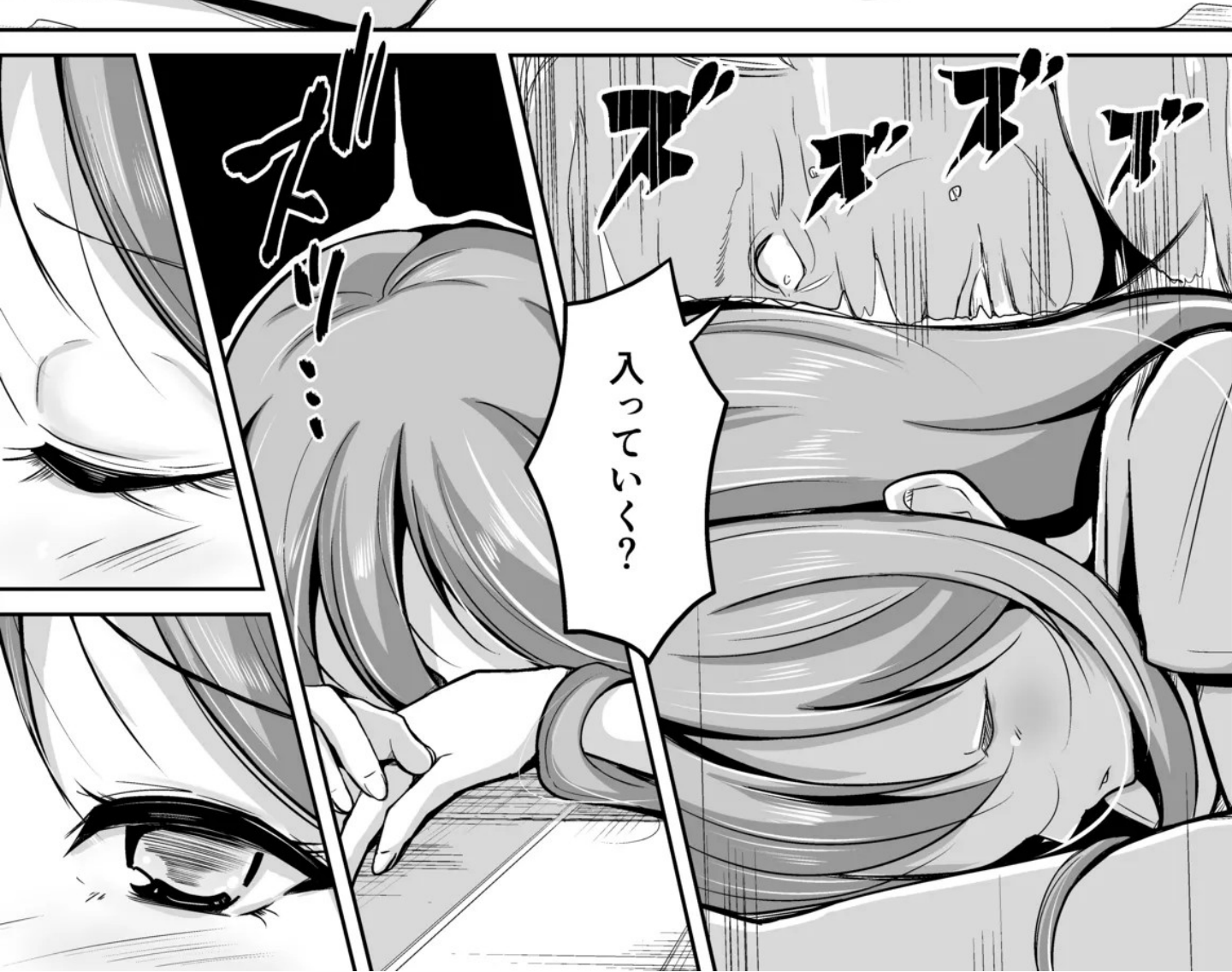














何だ
この声は？



ワシは
どうしたんだ？

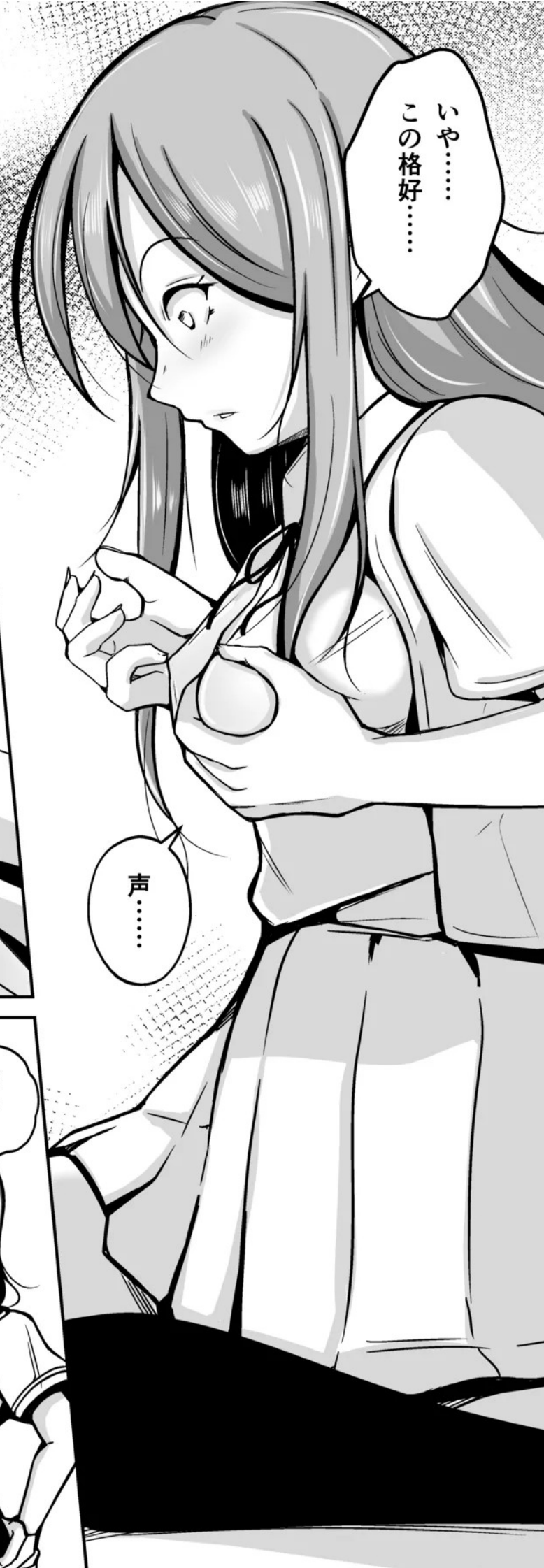
……ん？

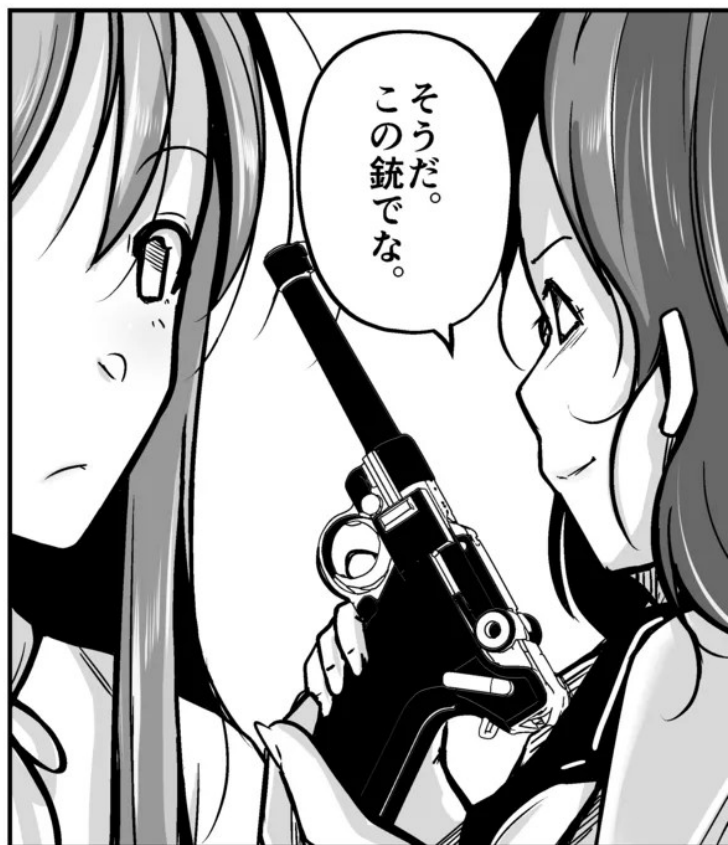


なんじゃ
これは？



ワシがスカート
はいている!!







しかも
美少女ときたもんだ。



見るだけ
じゃないぞ。



センズリをこく
モノがない
のはもどかしいが

いつでも
女の身体を

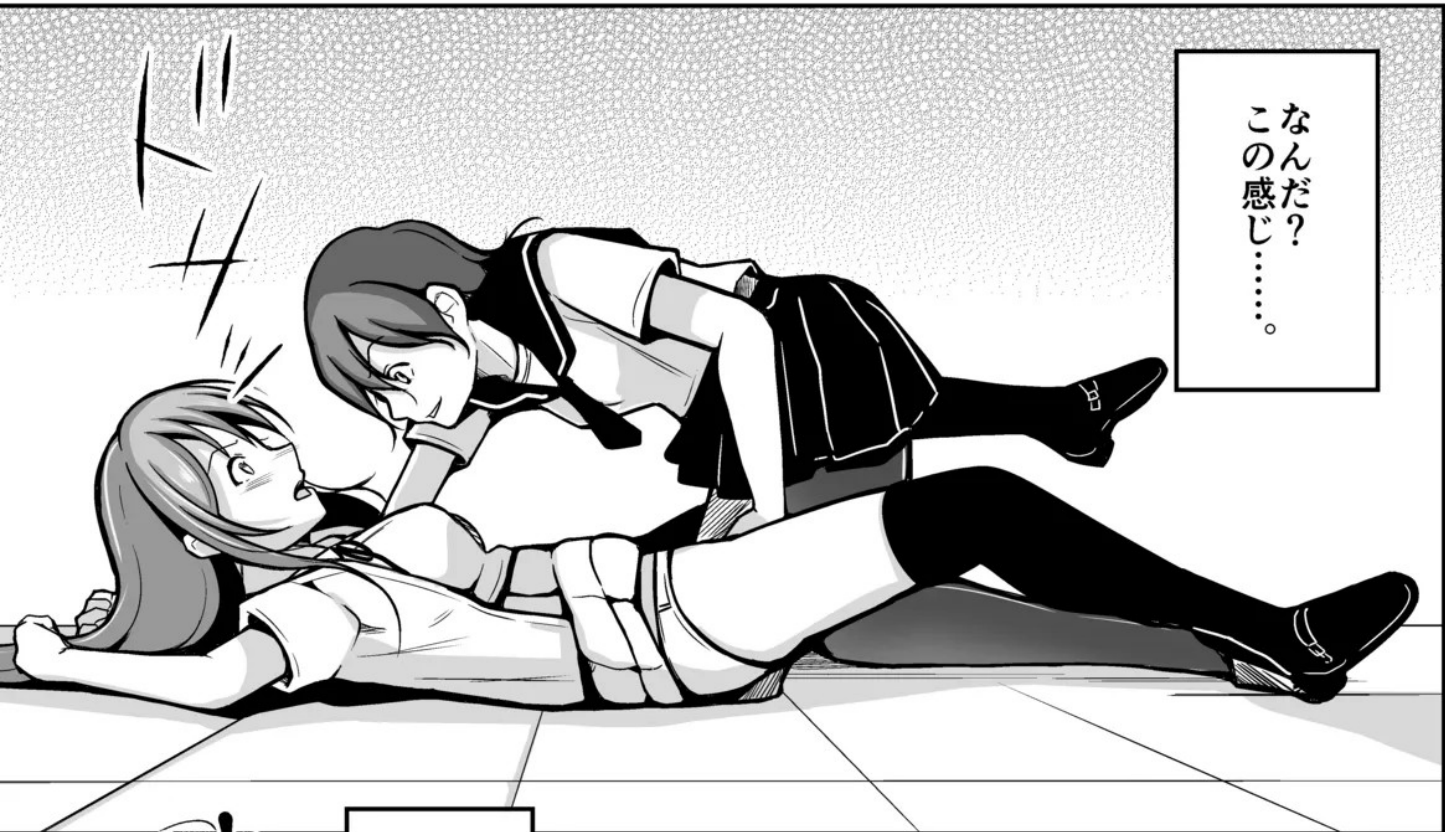
見れるってのは
悪い気はしないね。





女になって
こんな事を
されるなんて……

ここ
気持ちいいだろ？



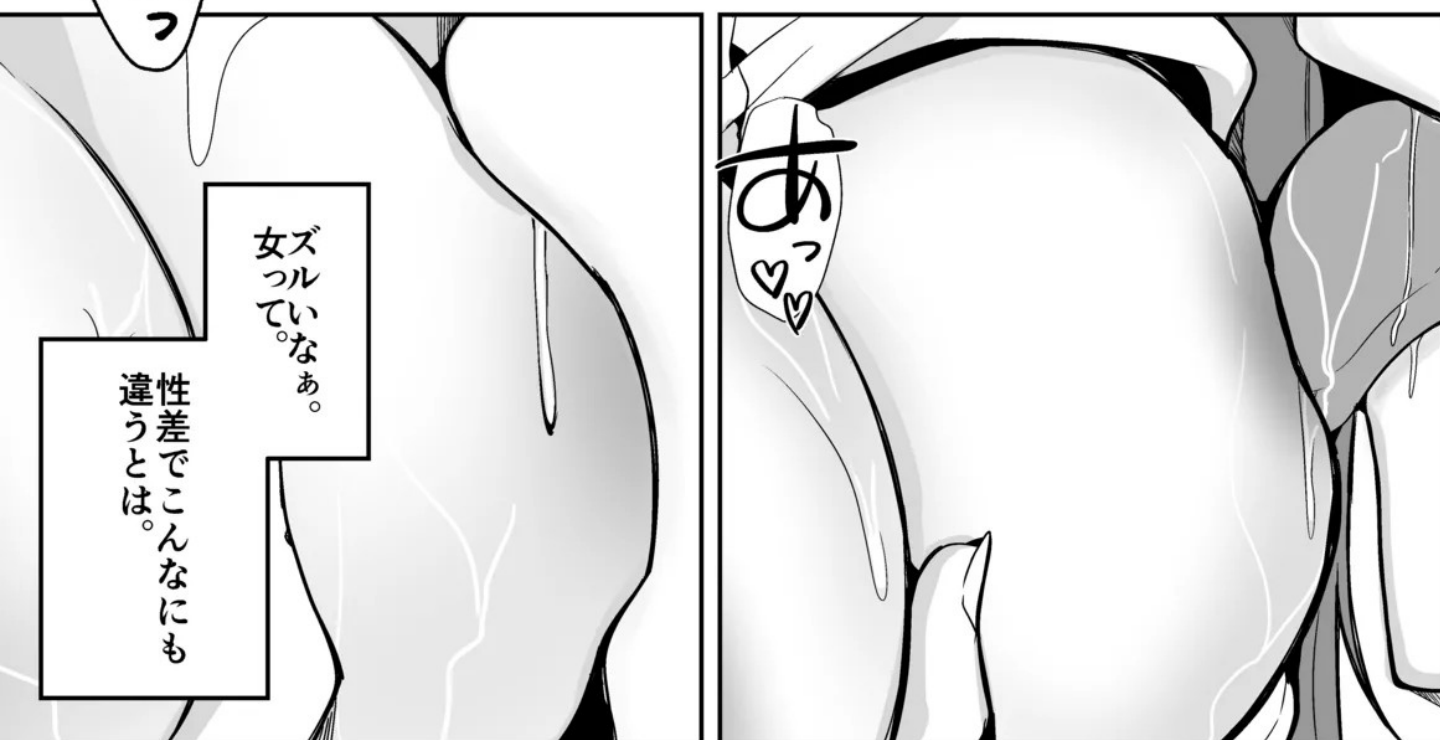
なんだ？
この感じ……。



知らんぞ！
こんな快感！

はあ













お前、自分の姿を見て
勃起してるのか？

違っ……！

まあ。
隠すなよ。

男だったら
当たり前だ。

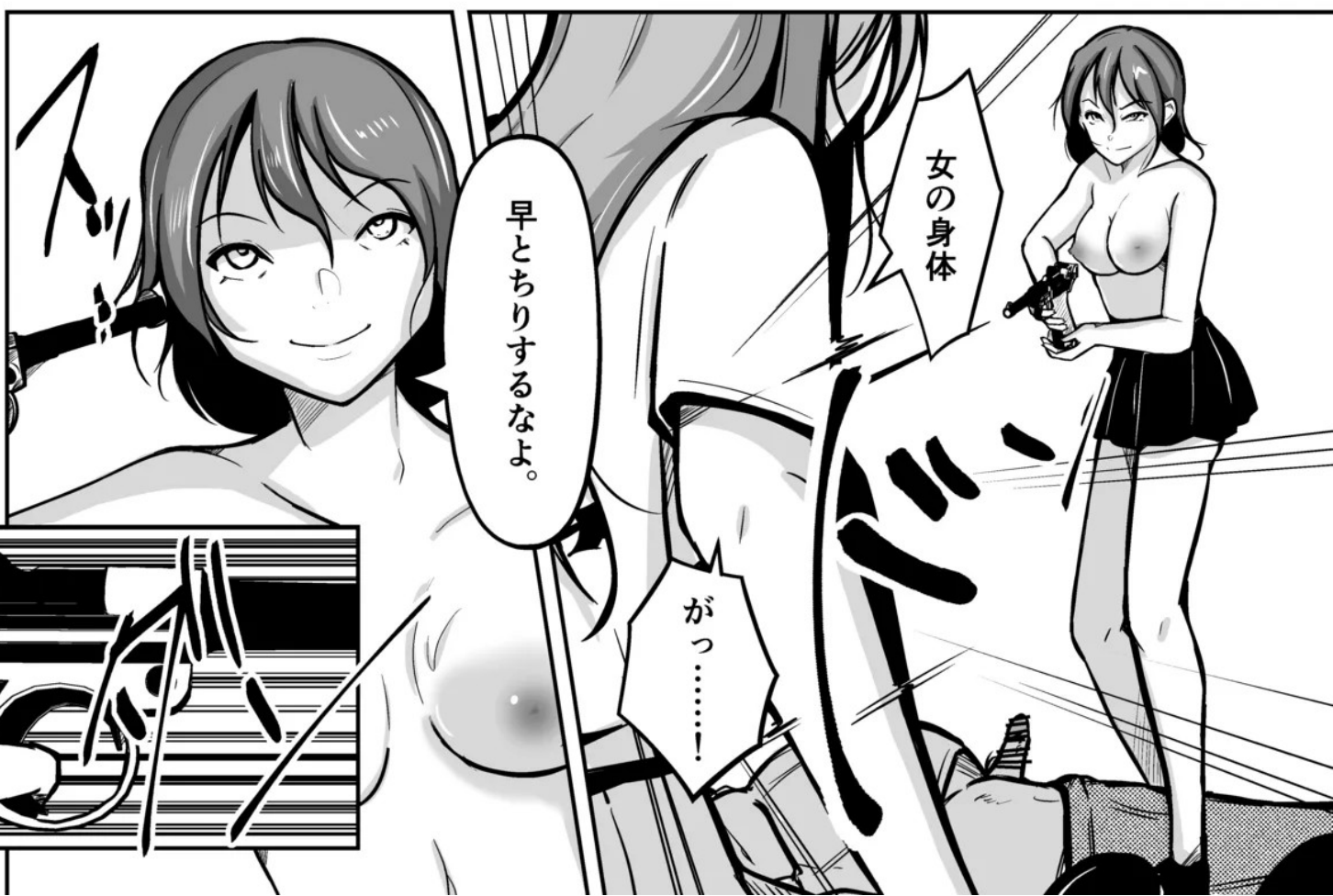
ふひ。
お前もか。

あっ！

やめて！







お前、自分の姿を見て
勃起してるのか？

違っ……！

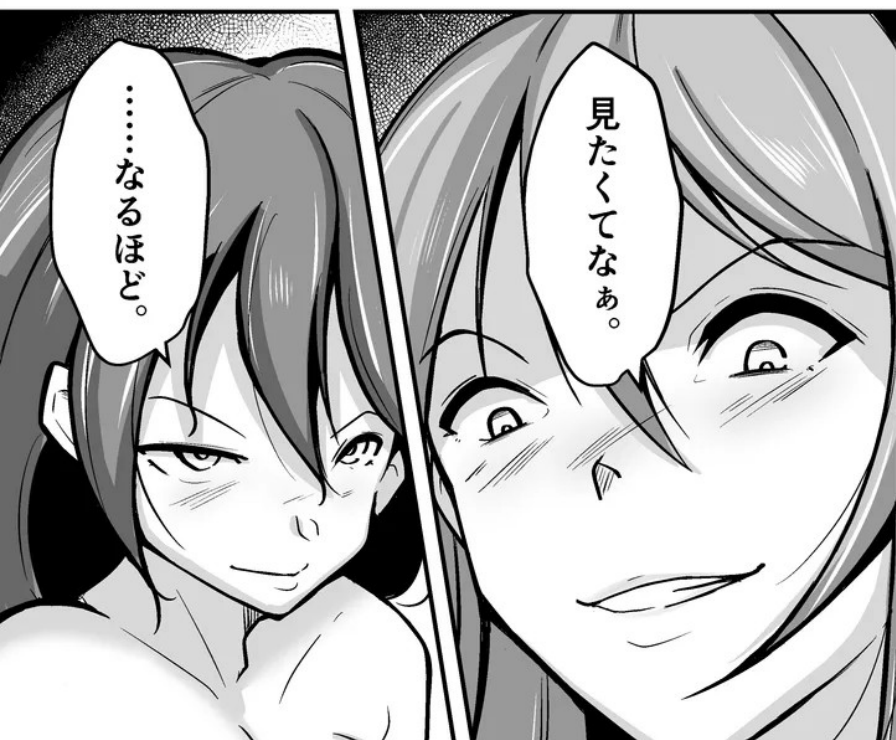
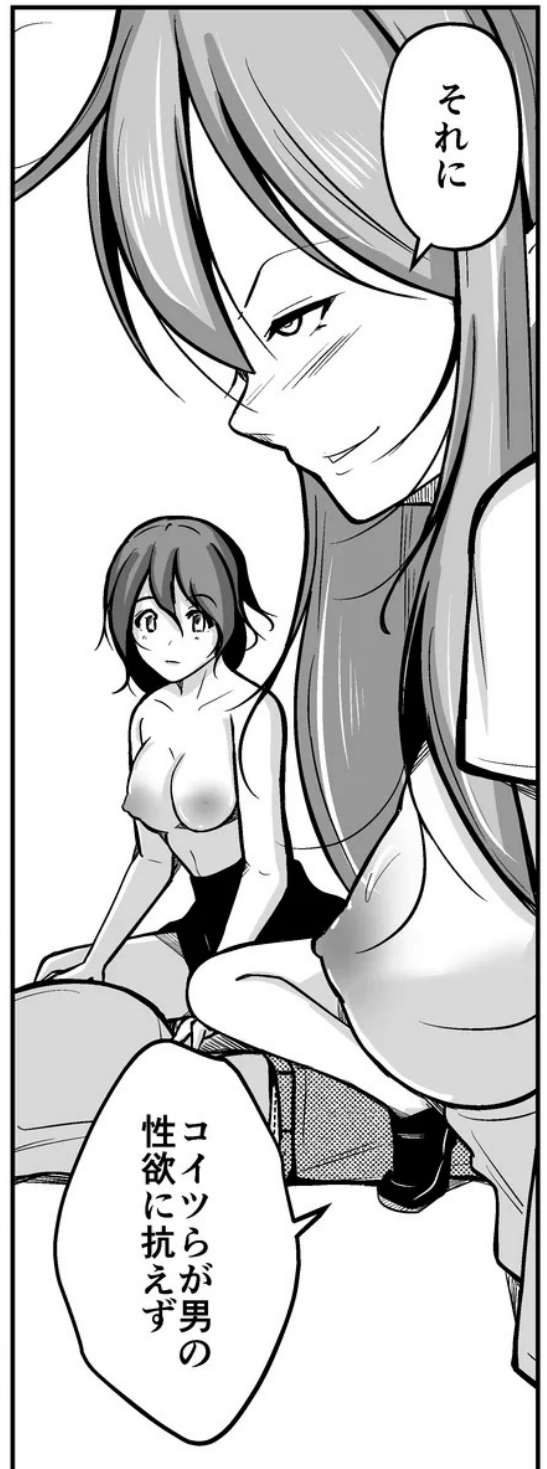
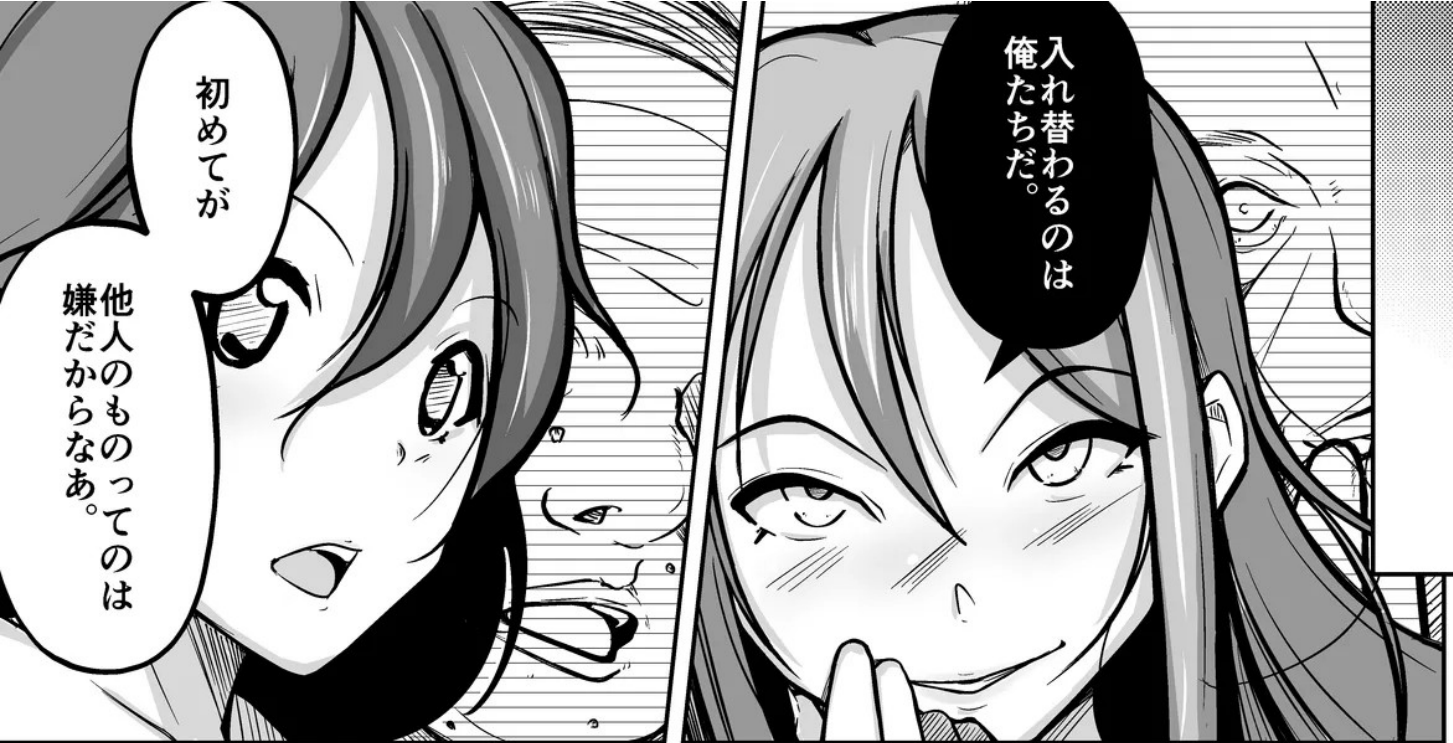
まあ。
隠すなよ。

男だったら
当たり前だ。

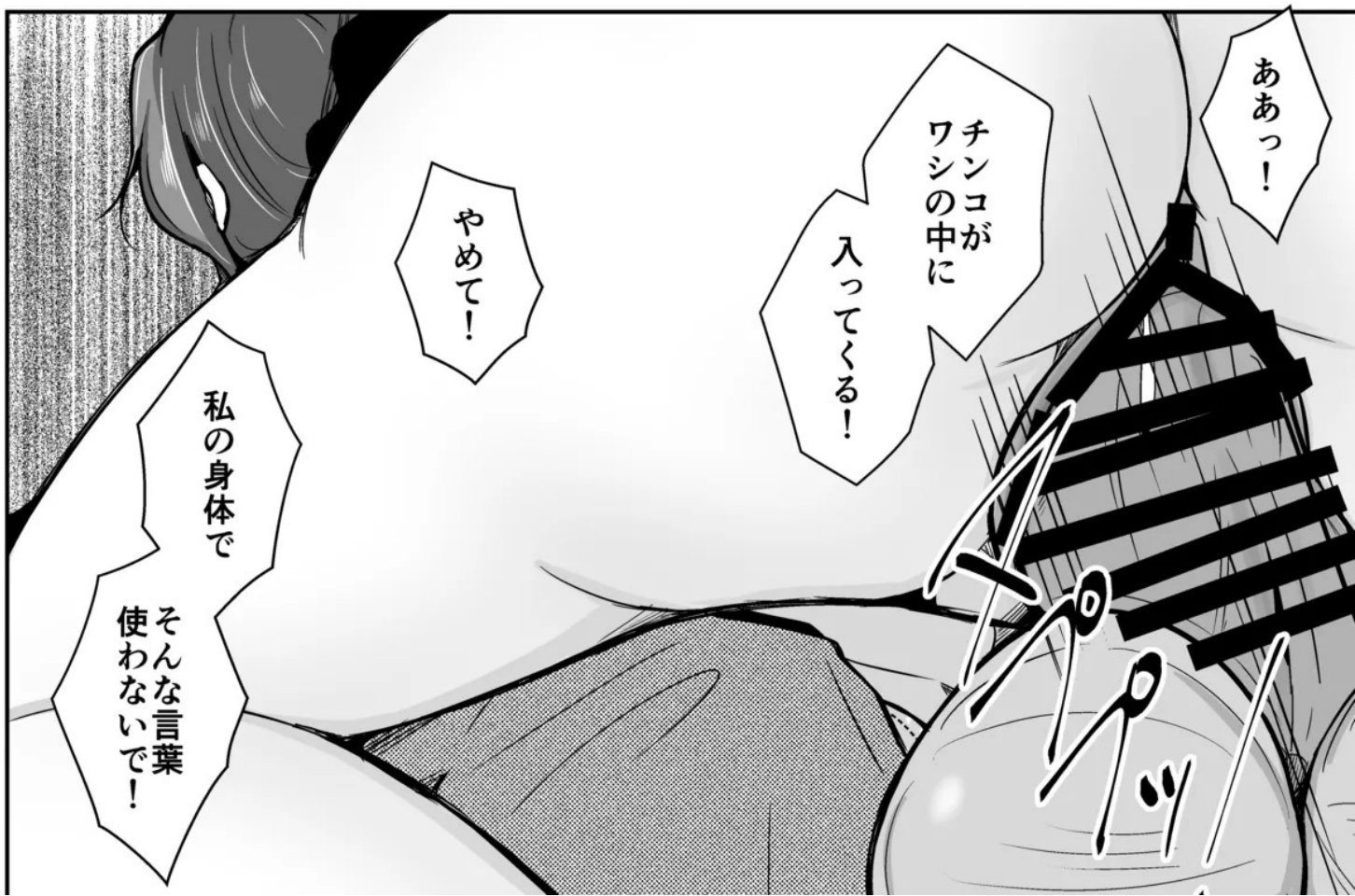
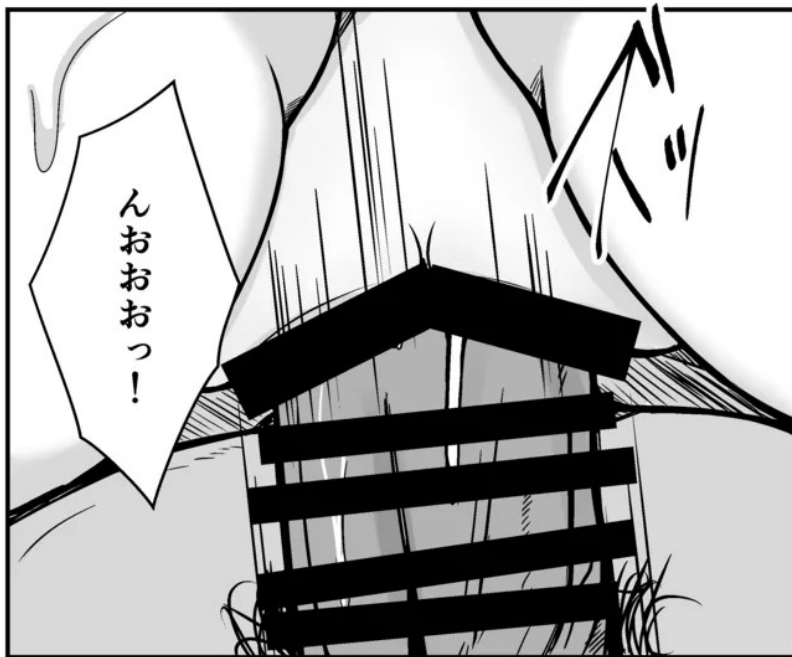
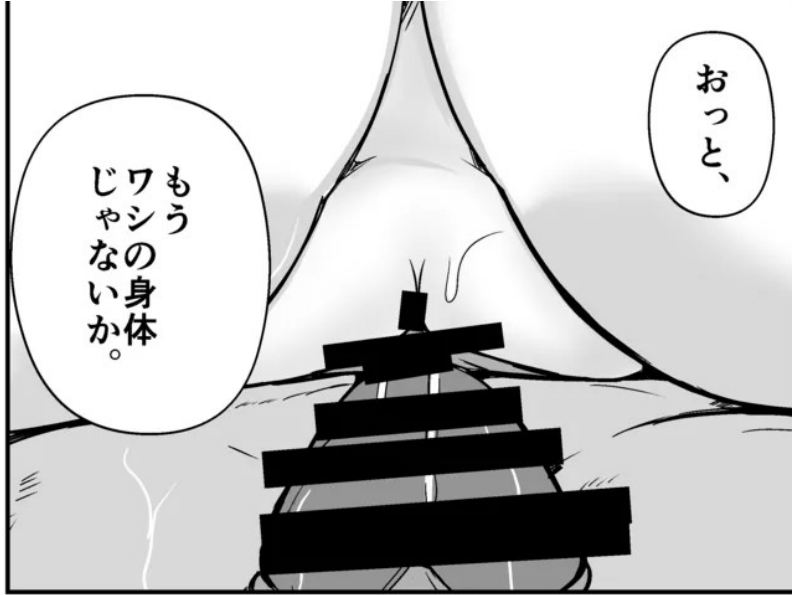
ふひ。
お前もか。

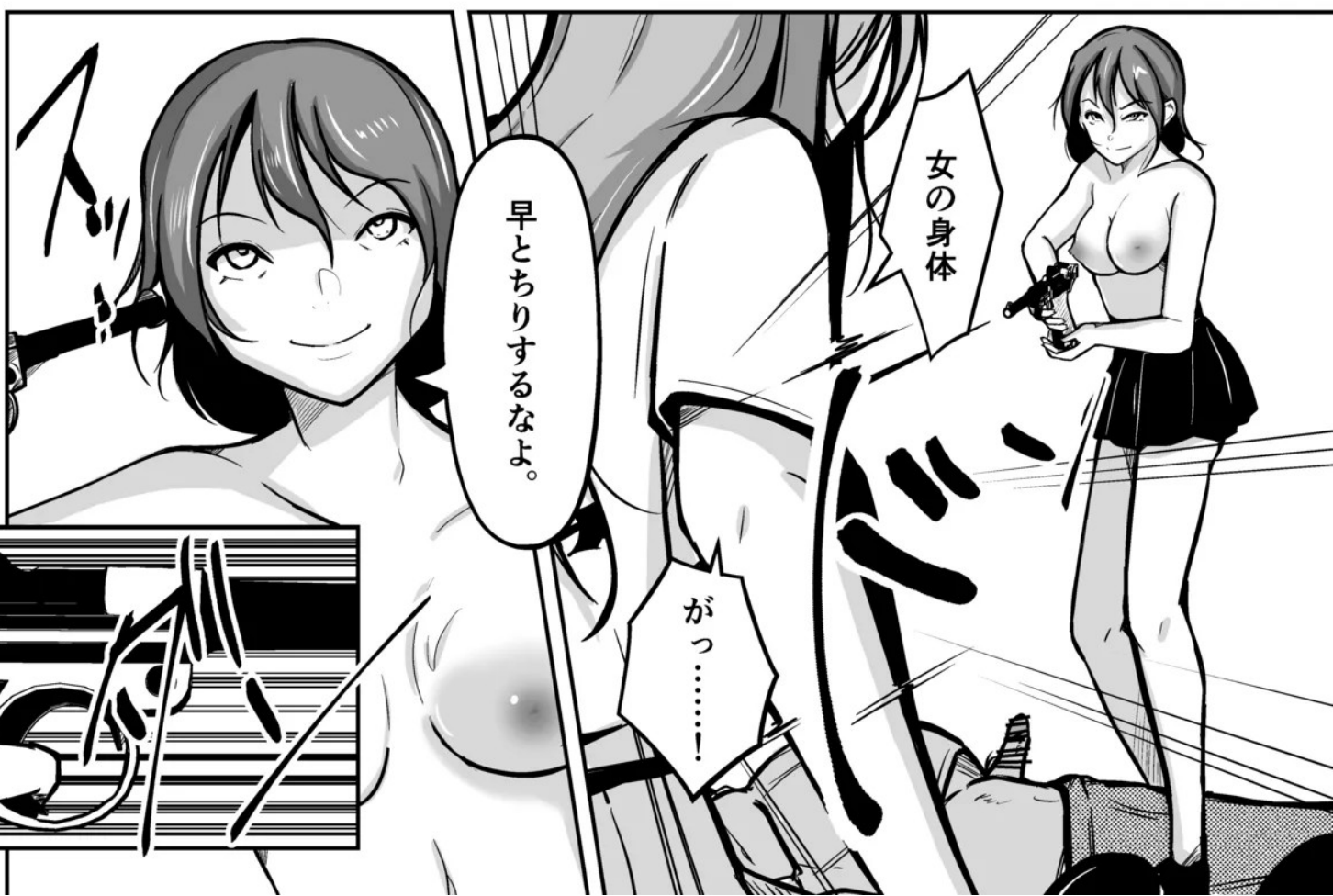
あっ！

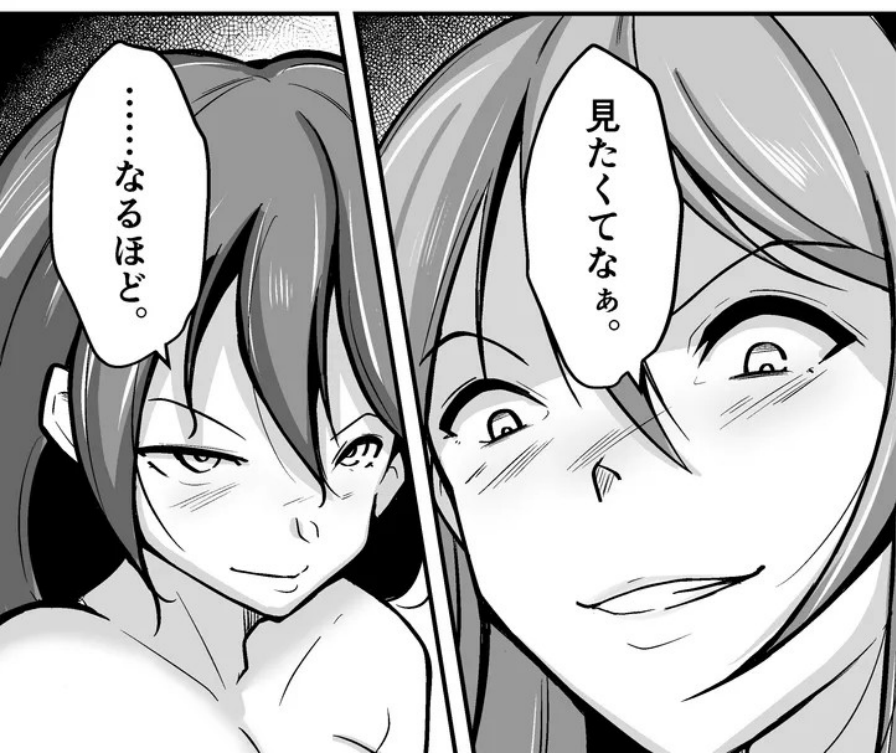
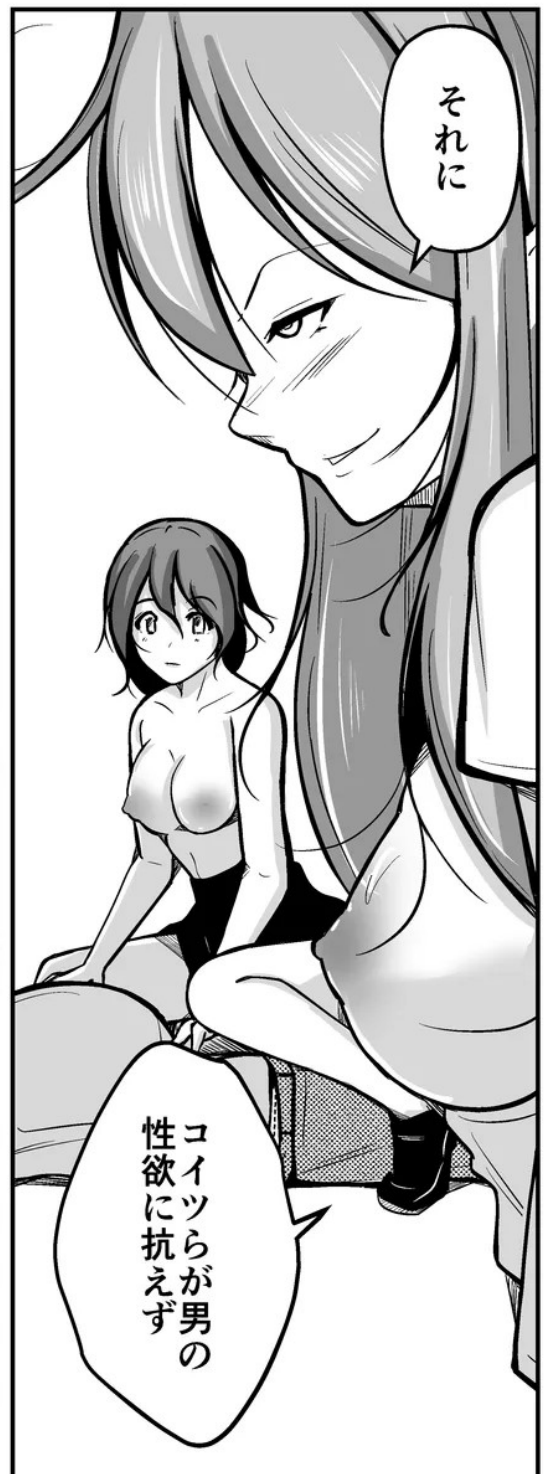
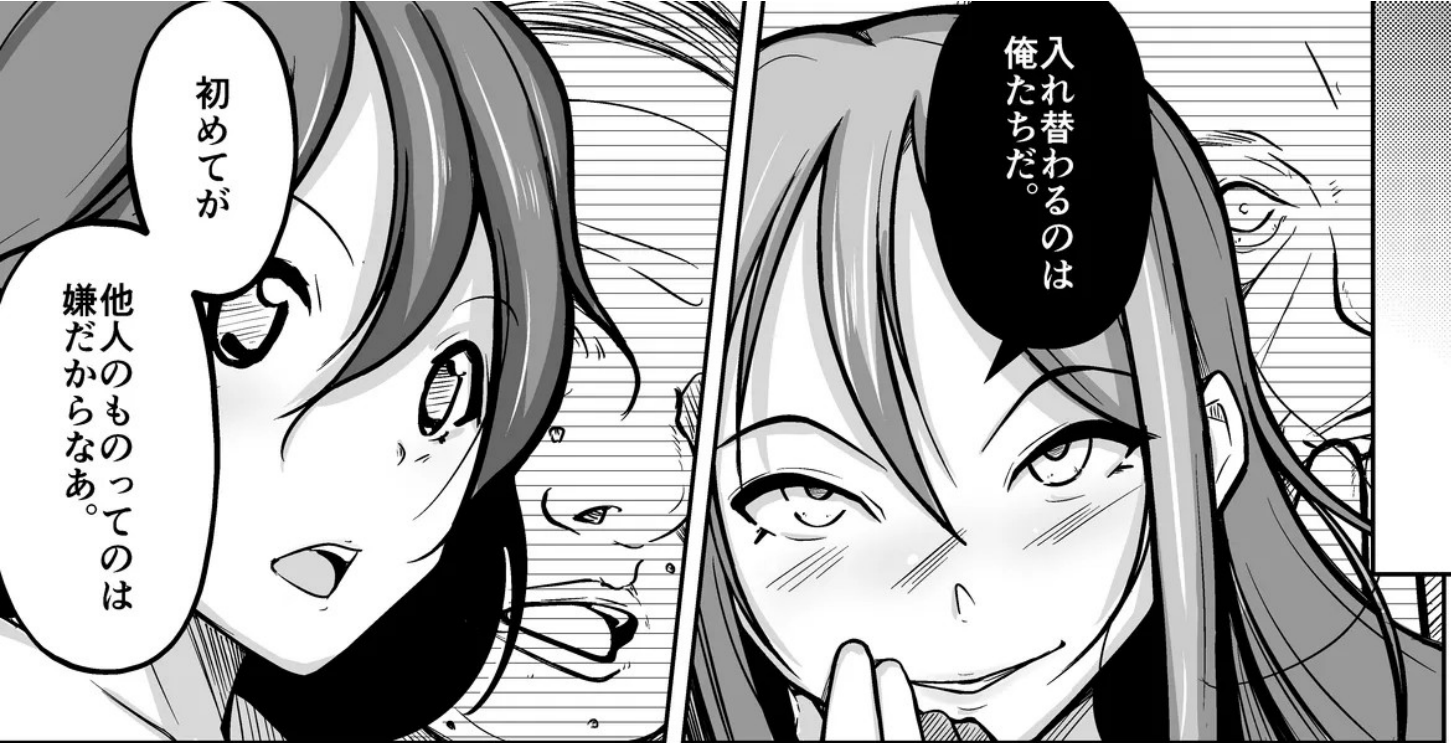
やめて！













凄い！

あっ！

おちんちんを
入れられるのって



はあ

あっ！

こんな
感じなんだ！



私、自分で自分を……

汚しちゃってる……。

はあ

はあ！



カリの部分が

膣内で
こすれる度に

ピクピクってして
締め付けちゃう!



やっぱり
おまんこに
挿入るべきは

おちんちん
なんだね。

千鶴にされるのより
断然気持ちいい!

やめて!

私の身体で

千鶴の事を
悪く言わないで！

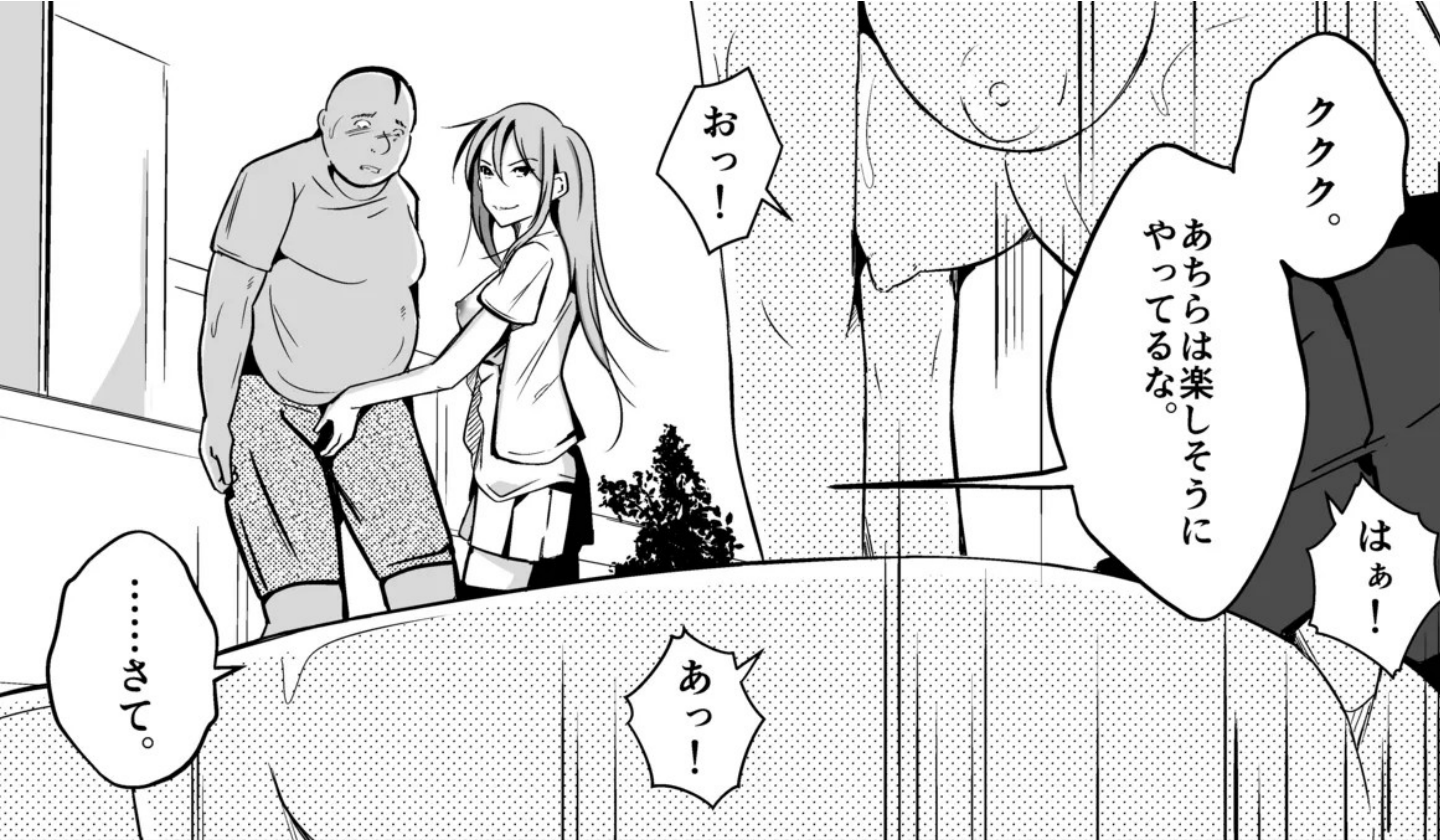
おっ!!

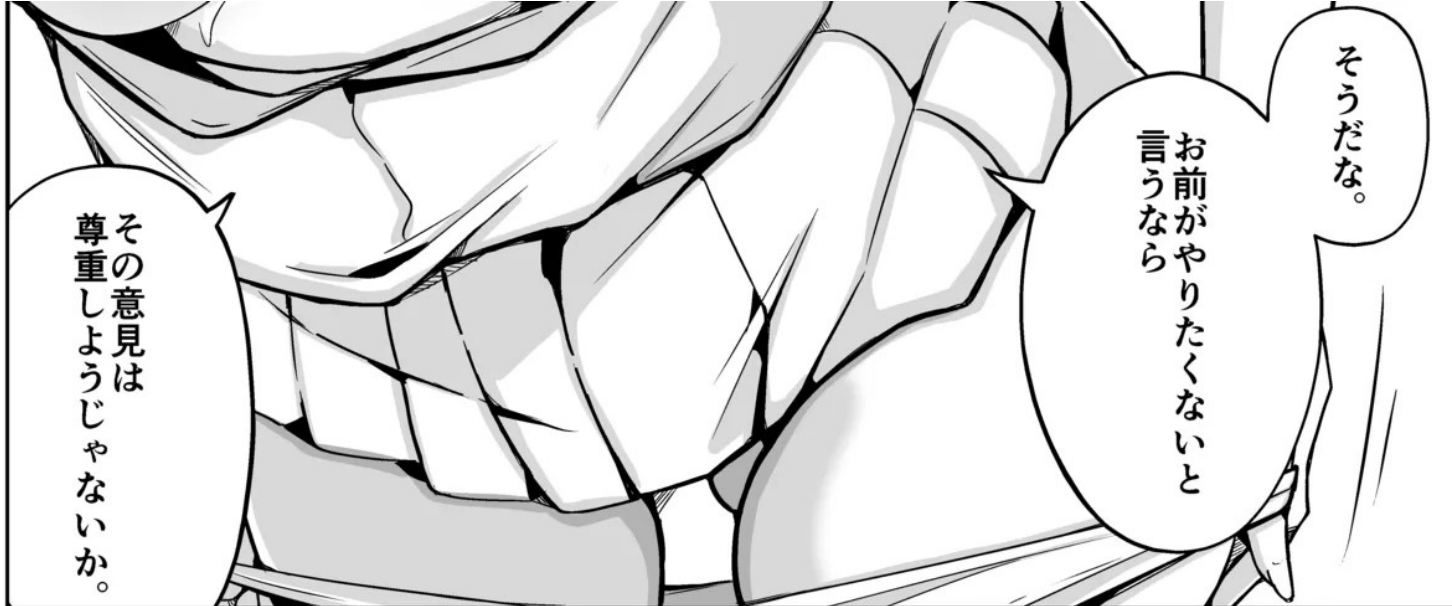
どうやらこの子の
記憶が読めるみたいだ。

あっ♡♡

という事は

この子も
ワシの記憶を……

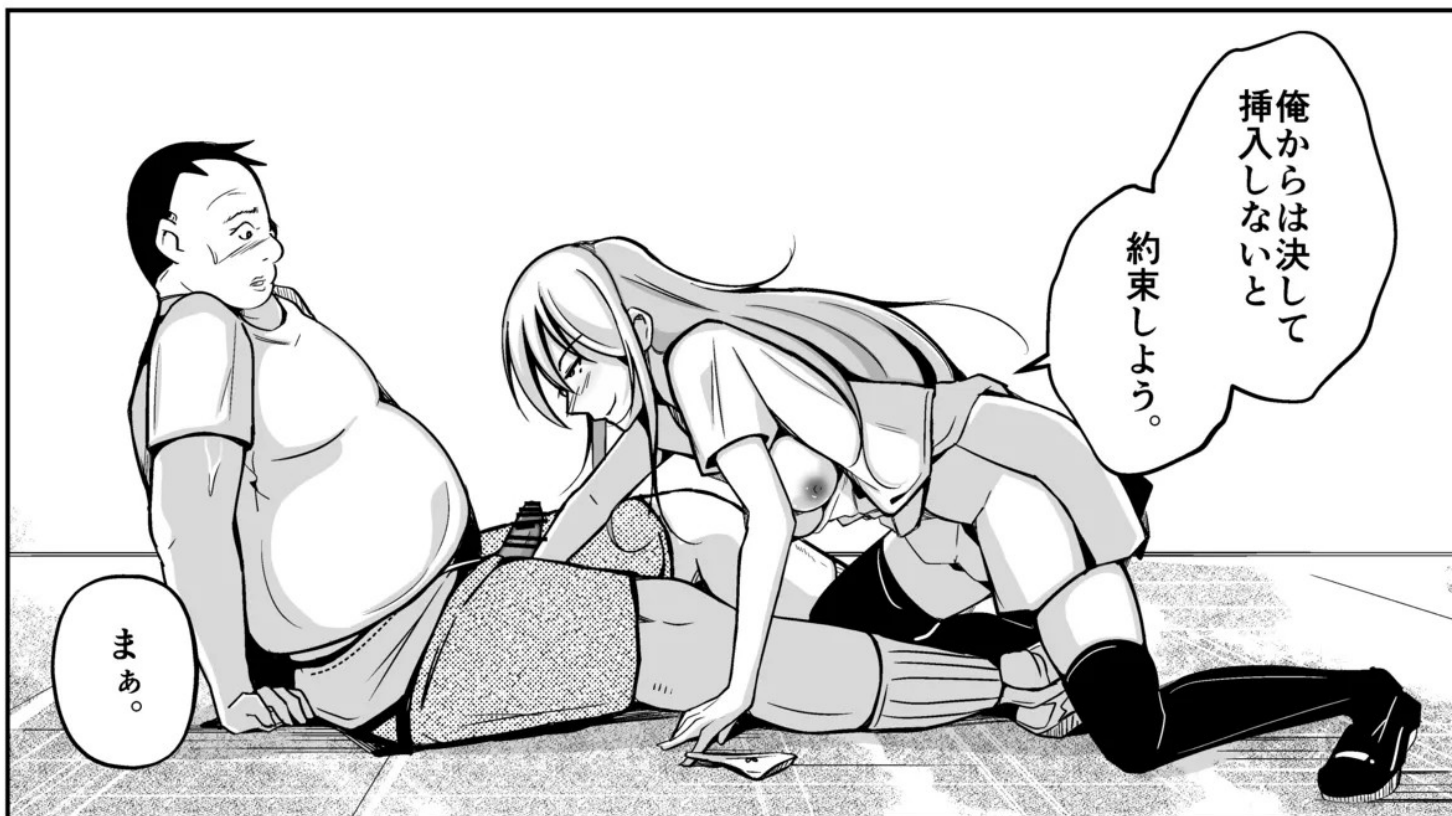




そうだな。

お前がやりたくないと言うなら

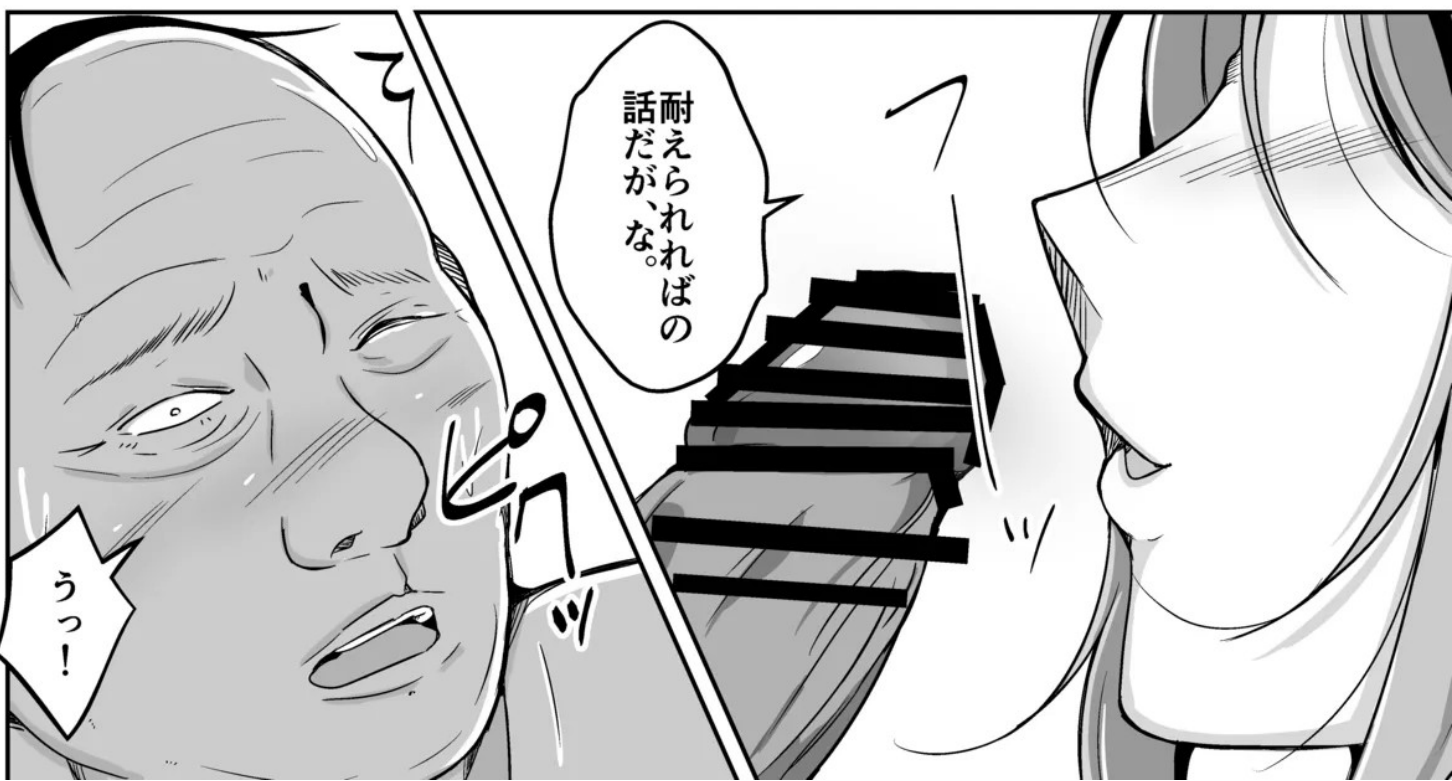
その意見は尊重しようじゃないか。



俺からは決して挿入しないと

約束しよう。

まあ。



耐えられればの話だがな。

うっ！



私、
男じゃない！

こんな状況で
耐えられる男なんて

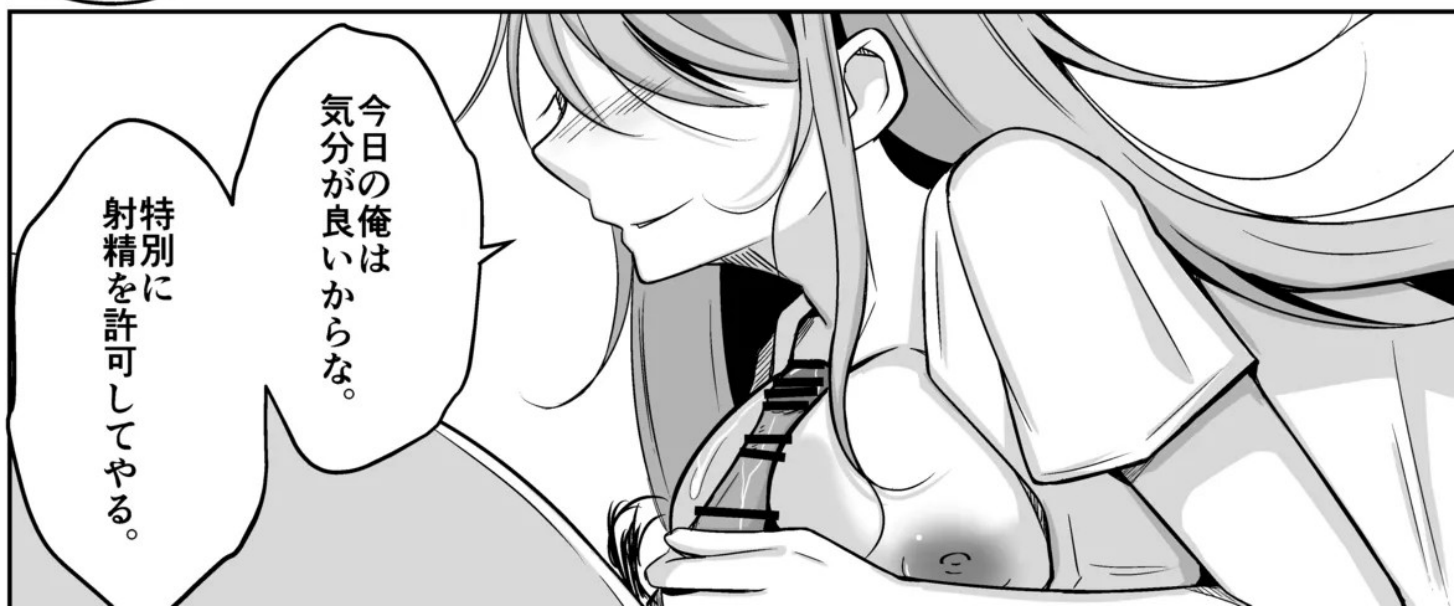
いねえと思うぜ？

くくく。

こんなもの
おっ勃てて

言うセリフ
じゃねーな。

男になった
ばかりなら尚更。





さあ！

射精しろ！

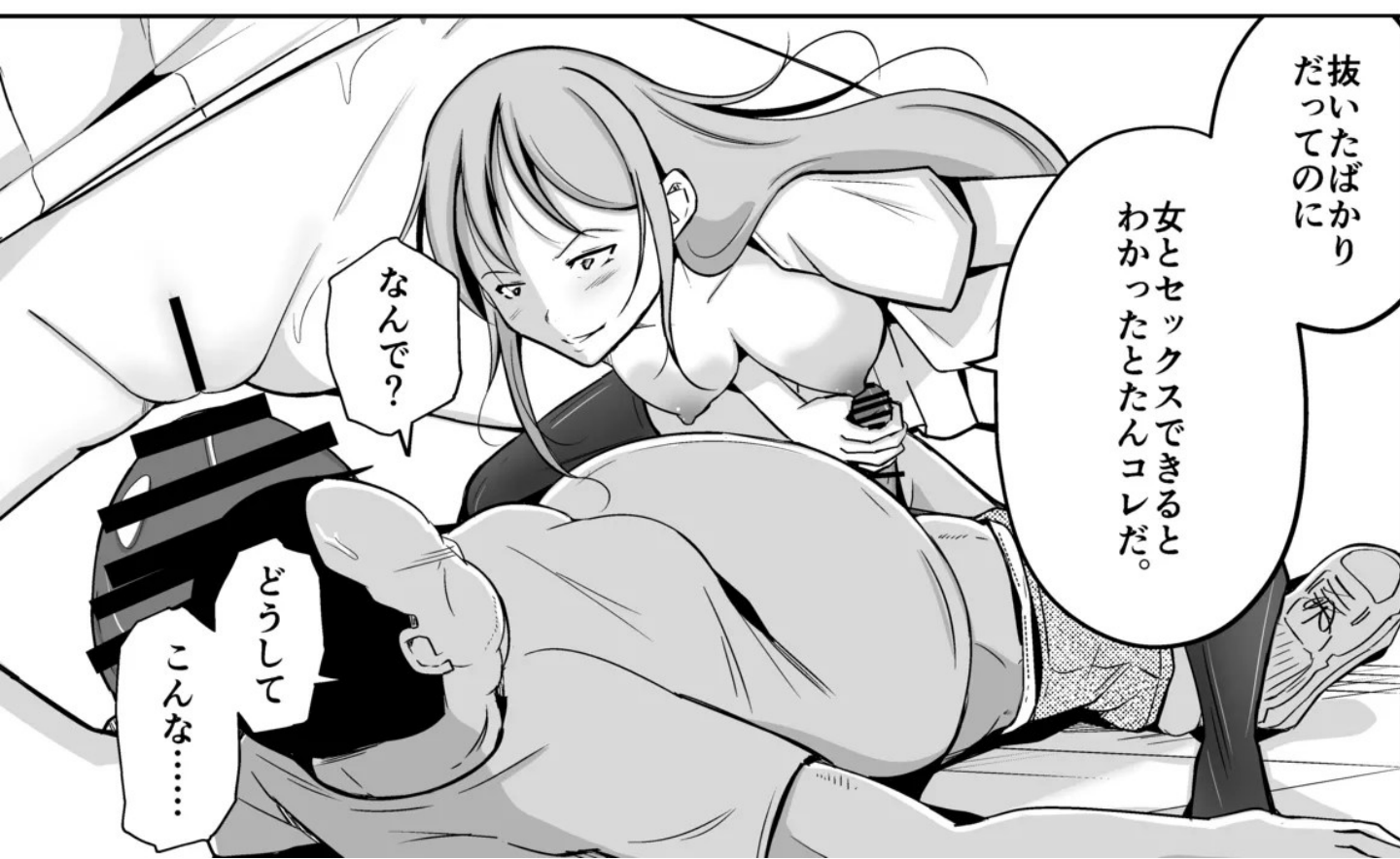
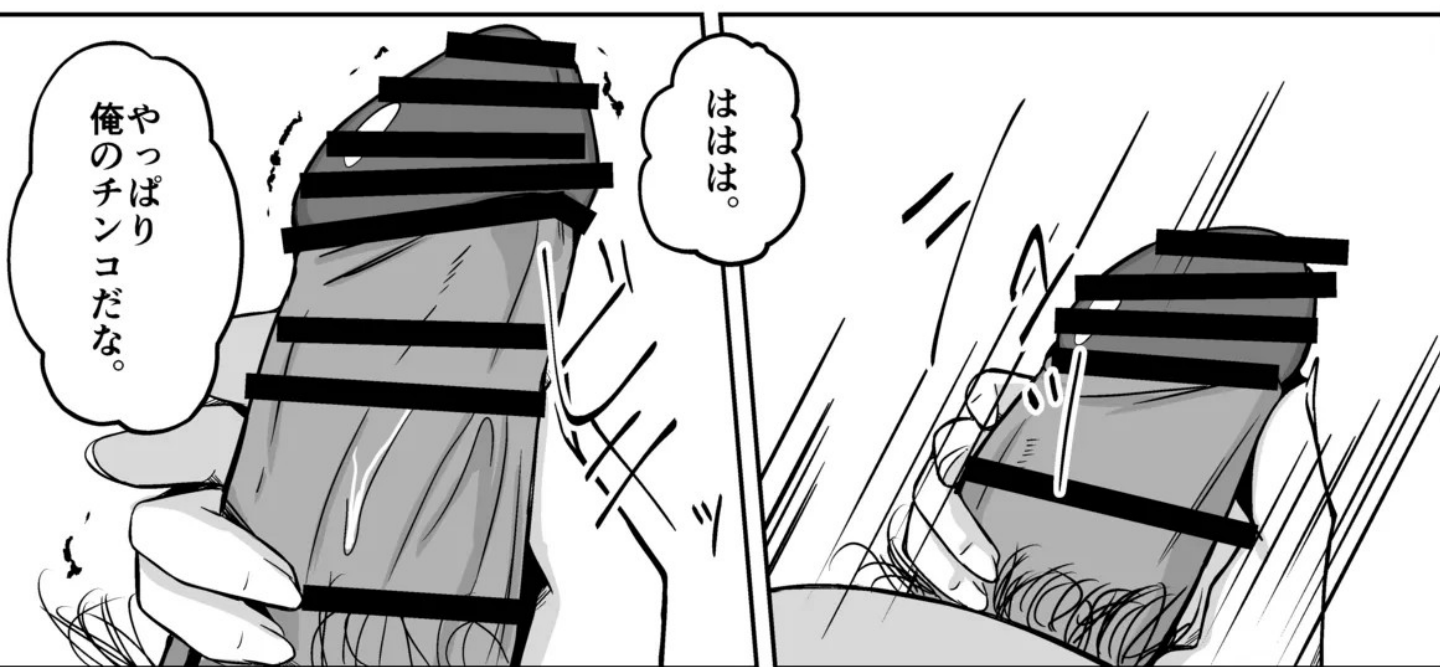
うおっ！！

?!

ははは！

こりやまた盛大に出したなあ。





その身体はなあ。

ああ……。

生身の女と
やった事なんて
当然無いんだわ。

暗い部屋で
一日に何度も何度も
セズリこいてよお。

だから、生身の女

しかも俺みたいなの
こんな美少女と
やれるのなら

そりゃあ。
こうなるさ。

やめて！

喜べ。
元俺のカラダよ。



俺が
味あわせて
やるからな。

全く縁のなかった、
女性のとの
念願のセックス



よし
動くぞ。

まんこが
きゅーって締まる。

すっげ。

あ
ん

これは……

す……
すっげえ

下腹部の違和感が
徐々に和らいで
気持ち良くなっていく。

やっぱりおまんこは
チンコを挿れるように
できてるんだな。

オナニーも良かったが
コイツは段違いだぜえ！

い……
いやあああああつ！

クク

俺のまんこの中で
お前のチンコ
ピクピク反応してやがる

はあ。
たまんねえぜ。

ピクピクして
膣内を刺激する度に

そんなこと言っても
身体は正直だぜえ？

身体が
反応してしまう。

実にいいねえ。
女の身体。



もうやめてー！

本当に
何でもするから
元に戻して！



何度も
言わせるなよ。

戻さねえよ。

…良いじゃねえか。



お前は
今までの人生で
十分に女を
楽しんだら？

俺も楽しまないと
不公平だら？

それに

お前みたいな
ブ男が

俺様みたいな
美少女とやってるんだぜ？

その身体にしちやあ
出来過ぎなくらい

幸せなシチュエーション
じゃねえか。

むしろ感謝して
ほしいくらいだ。

ククク。





当たり前のことなんだ！

あぁあぁ

ズッ

んおおおっ！
激しいっ！

もうどうなっても良いや。

どうせ元に戻れないのなら
本能が赴くままに

あはははは！

完全に欲望に
のまれおったな！

この性欲を満たすために

犯して犯して！

ズッ

犯しまくってやる！

ああ……。
俺、今、女として
犯されてる!!

どうやうでも
抵抗できない男の力!

女って何で非力なんだ!

女らしく
嬌声を漏らして

あーん

んっ♡

ああ♡

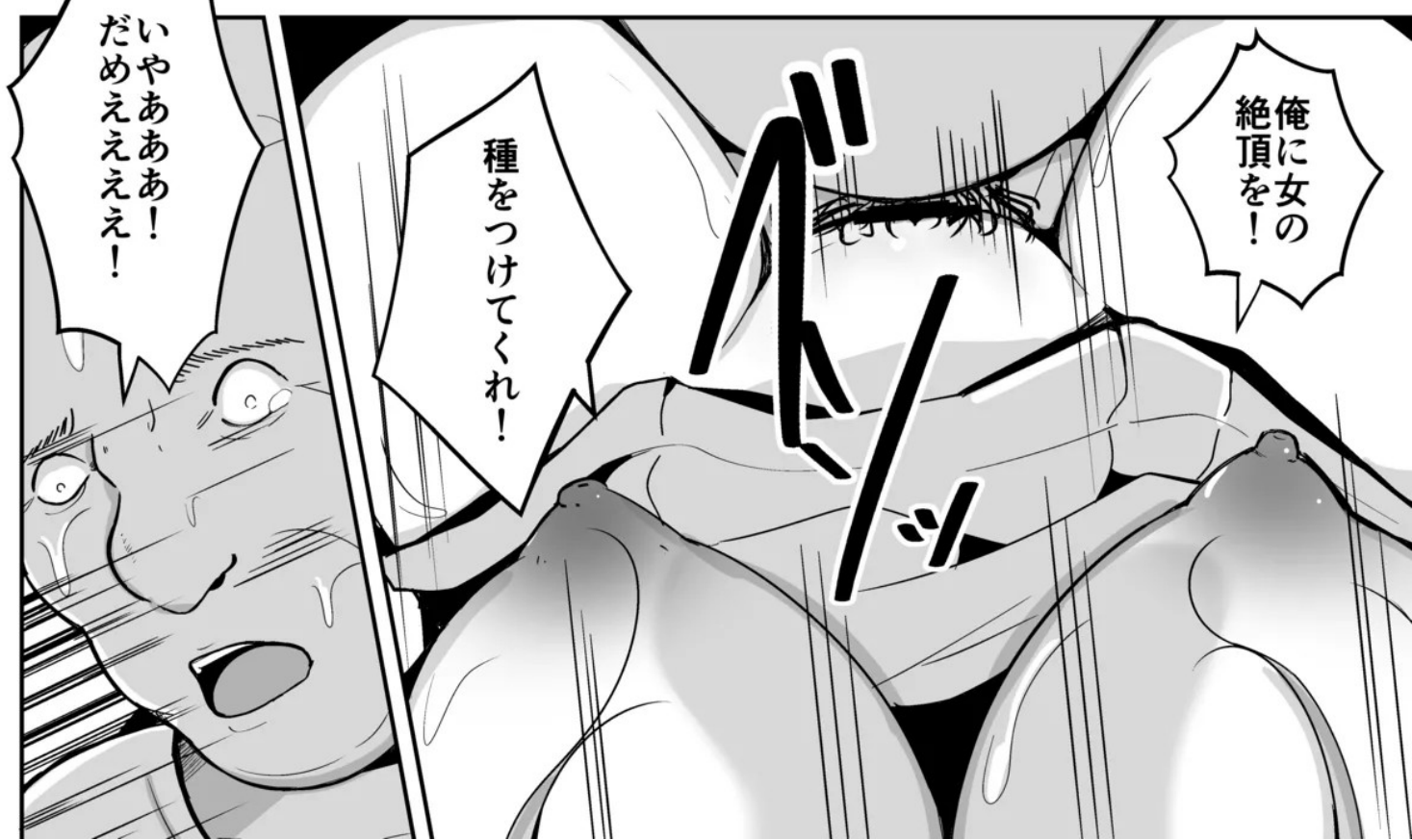
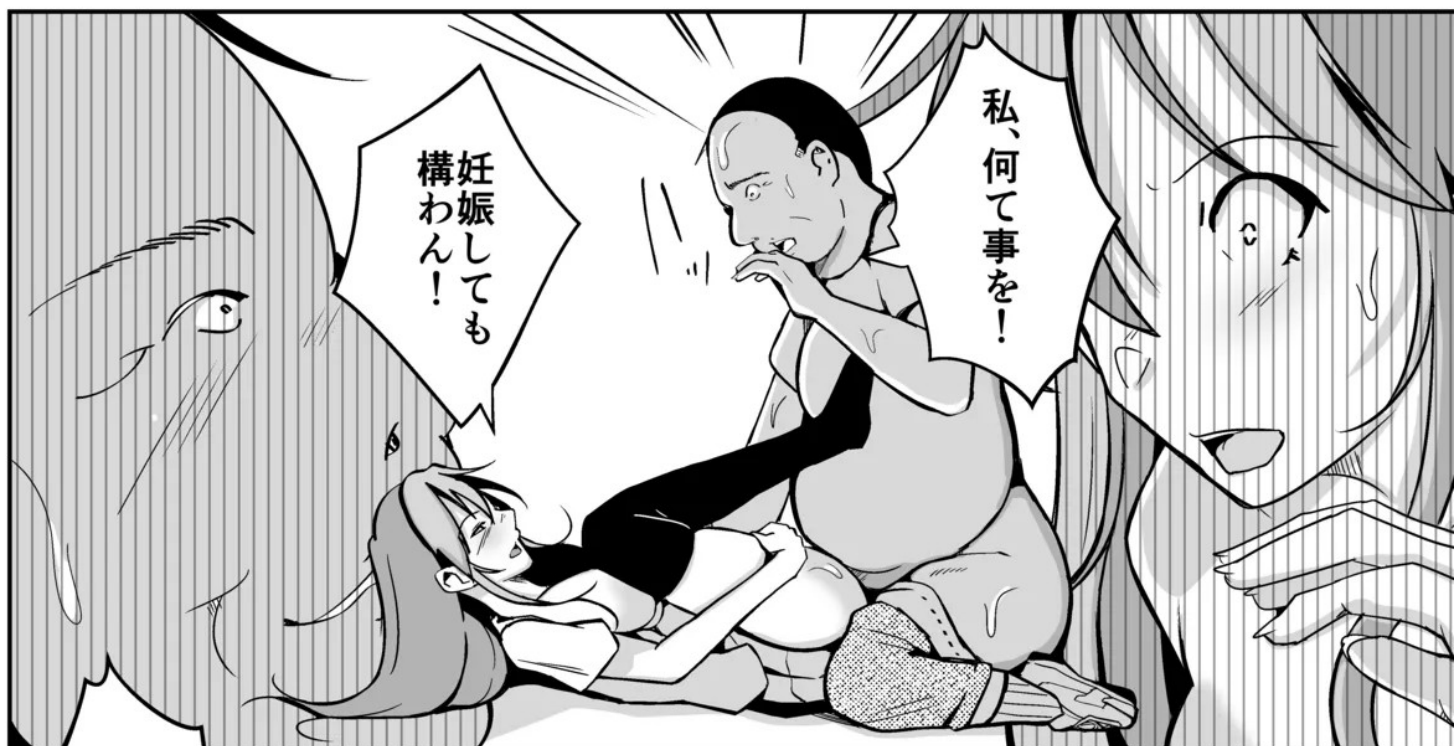
でもそれを
俺はすべて望んで受け入れて

感じて

あッ♡

ああ。
何と倒錯的な……

ひゃん





ああ……。
膣内が精液でまみれてる。

トロキ……

快樂と幸せで
満たされて

温かくて

これが膣内射精……

最高過ぎる

——これは、
この子の記憶……？

そうか。

君も
苦労してたんだな。

そりゃ、
こんな事されたら

千鶴ちゃんの事
好きになるよね。

やめて！
私の記憶読まないで！



みじめな
生活だろ？

セックスはおろか、
家族以外の女
というものに

触れた事も
無い人生だったんだ。

しかも性欲は
人一倍強くてね。

いつだって女と
やる事を
妄想してたよ。

——だから

今のこの状況は
ワシの願望そのもの。

理性で抑えられる
はずがないわな。



なんで
辞められないの？

なんで私…

ズッ
ズッ
ズッ

自分を…
女の子を

めちゃうくちゃに
犯したいって
思ってるの？

そんな事
あっちゃいけないのに！

だって私は男が嫌い！

大嫌いなのに！

んっ♡

なんで私

アイツらと
同じことをしてるの？

あッ♡

何で！なんで！
こんなにも！

おおっ！

ッ
ッ
ッ

犯されている
自分の顔を見て

愉悦に浸ってるの？

…ごめんね。
千鶴。

おっ♡

あ♡

私ももう
あなたに
どんな顔
して
会え
ば
い
い
よ
か
て
わ
か
ら
な
い
よ
か
て
……

だって、
おかしいでしょ？

あああ

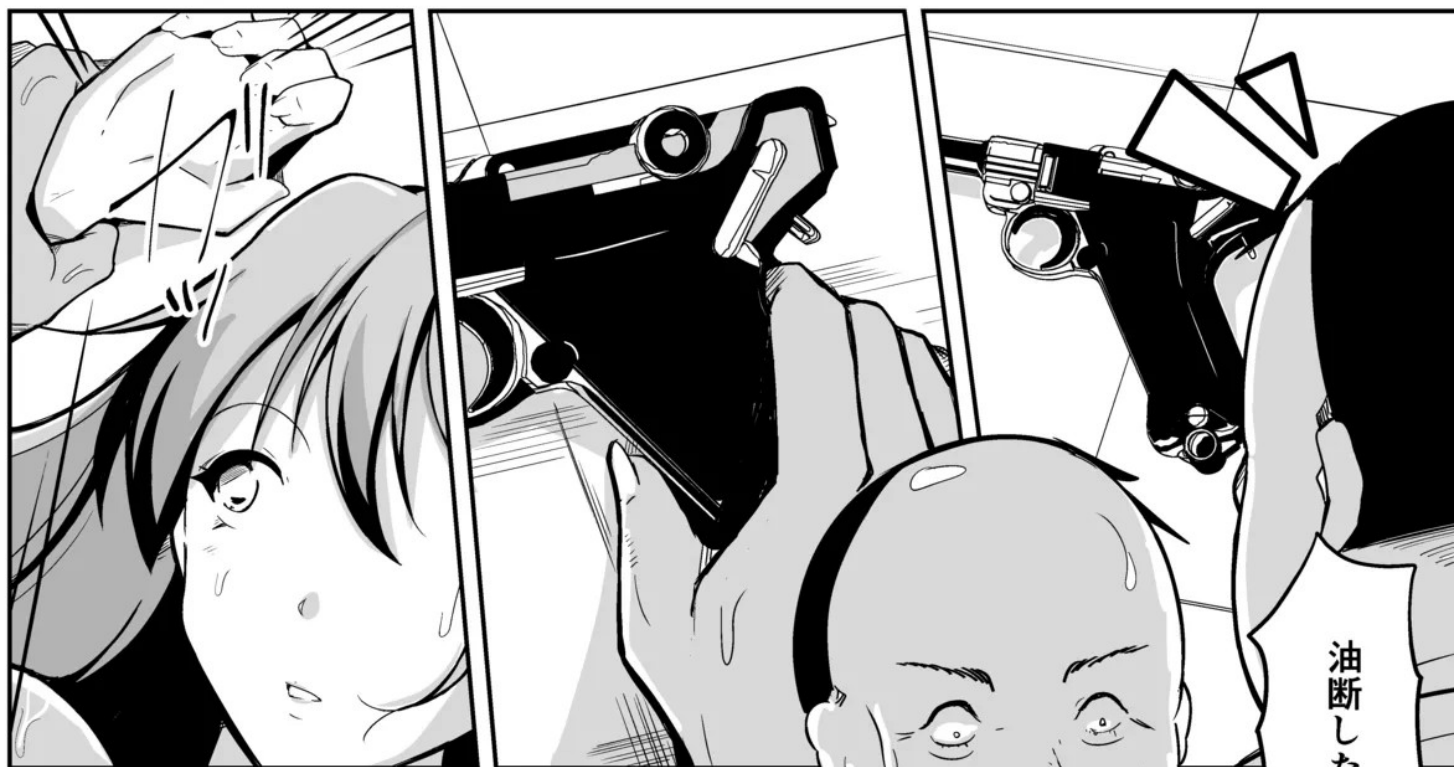
私、自分に
膣内射精しちゃってるの。

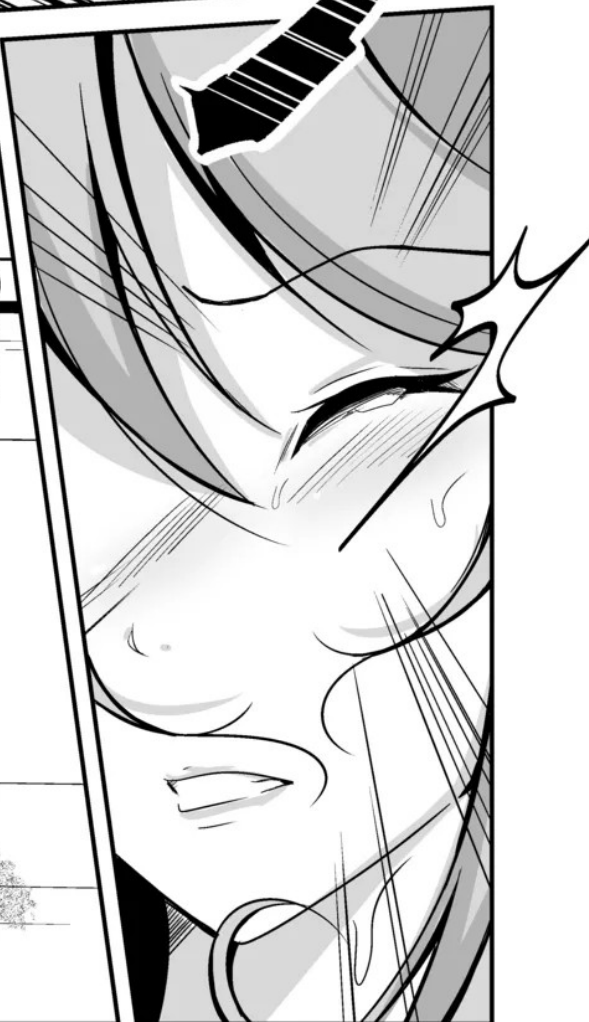
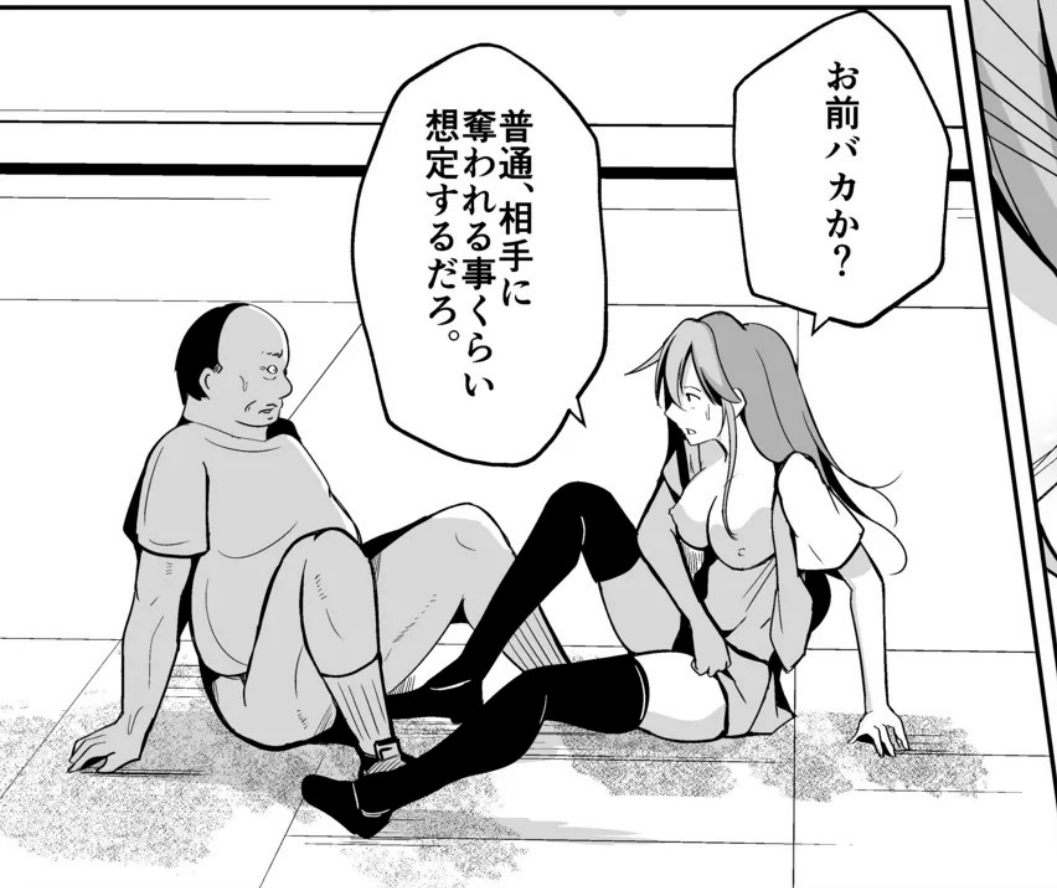
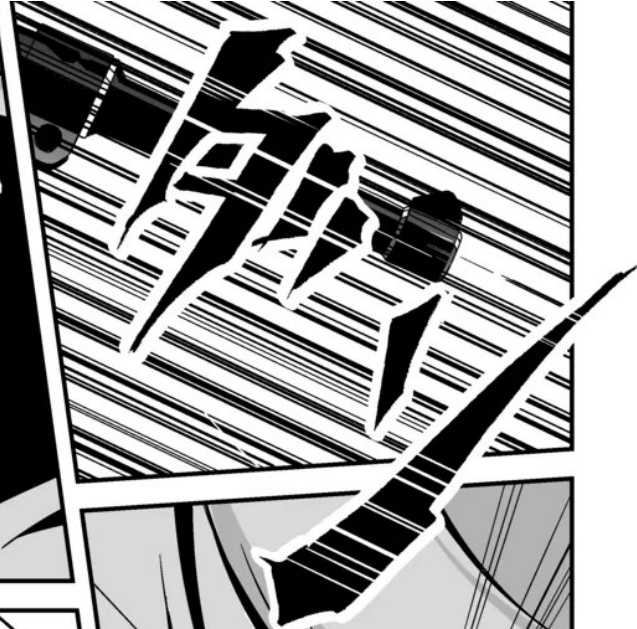


たまらなく
嬉しいのよ……？

それが、







流石にバカなお前でも
気付いたか？

他人になった俺が
何故使えるのか？
俺の身体である自分
が何故使えないのか？
って。

UNLOCK



魂の情報でロックが
解除される
仕組みなんだよ。

だから俺がいくら身体を
乗り換えようが
他人に俺の身体を
使われようが
関係ないって事さ。

まあ。
誤作動するとしたら
俺と似たような
歪んだ心の持ち主が
使った場合かな？

まあ。
君たちのような
人種が使っても
万に一つも
誤動作は無いんだよ。

ククク。

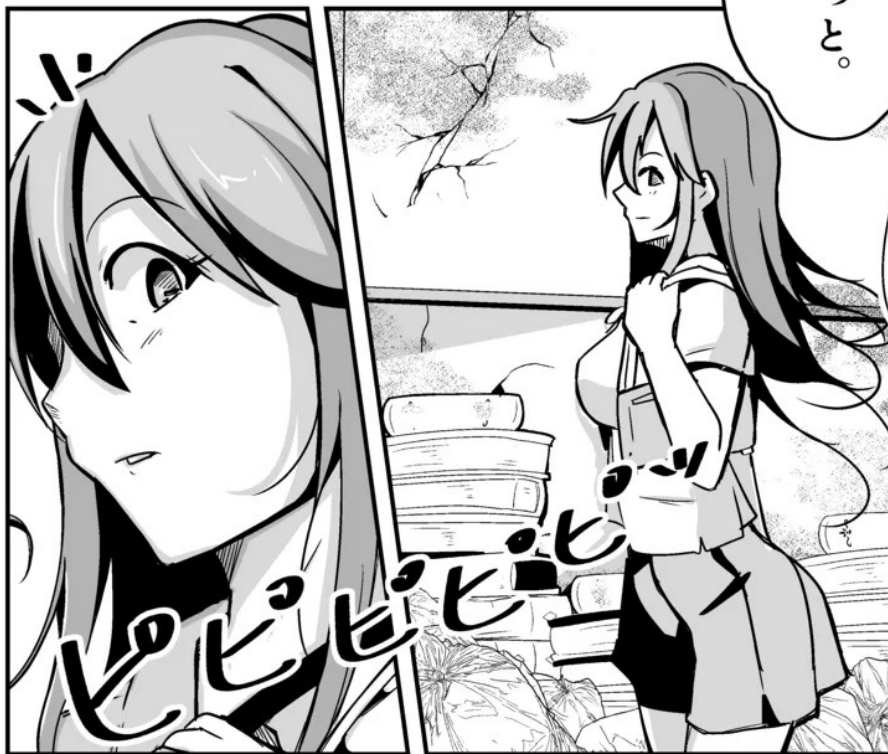
そ、そんな…

ああ。
それと……





ただいまーっと。



17:05
10月15日 金曜日

数秒前
! 魂を抜き取る銃 001に
不正なアクセスを
確認しました。

これは
どういう事だ?



なっ?